

第六部

資料編

良陵新聞

主な資料

震災による学生の被災状況

平成 22 年度医学部医学科 3 年次基礎医学修練発表会

平成 22 年度第 3 年次授業時間配当表

震災後の学生状況把握に向けたアンケート

学生なんでも相談室

学生相談所

貴重な生物試料などの被害状況

災害報告書

震災被害状況一覧

寄付申出受付状況と活用状況などについて

震災を乗り越えて更なる発展を

山本雅之 医学系研究科長・医学部長

今回の東日本大震災を受けて、東北大学大学院医学系研究科・医学部としての被害状況や復旧活動、そして今後の復興構想について医学系研究科長・医学部長である山本雅之先生にお話を伺った。

被害総額 40 億円以上

設備の被害額は、修理等に 60 万円以上かかる見込みのものが約 40 億円に上り、それ以下の設備や消耗品等も含めると、さらに増える可能性はある。ただ、学生や教職員の中で負傷者や死亡者が 1 人も出なかったことは幸いであった。

33 年前、ちょうど私が医学部 6 年生のときに宮城県沖地震があった。宮城県沖地震のときには、建物が壊れたりブロック塀の下敷きになったりして、仙台市内で 30 名近い人がお亡くなりになった。今回はそのときより大きな地震であったが、仙台市内で建物の崩壊や塀の下敷きになったということで亡くなられた方はいなかった。この 33 年間で耐震補強が進み、私たちの備えは非常に改善したといえる。

大学としても、研究安全推進室をつくり、各分野に研究安全担当者を配置するなど、災害対策を強化し、産業医による安全巡視も行ってきた。この間に耐震補強の強化や安全対策強化を進めてきたことが功を奏したと考えている。

とはいうものの設備面での被害は決して小さくなく、特に医学部の中で最も古い 1 号館と 3 号館では、建物に大きなひびが入る、エレベーターが使えなくなる、屋上の給水塔が壊れるなど、他の建物より大きな被害が出た。加えて、一般的なことではあるが、低層階に比べて高層階に被害が集中した。今後は、より地震に強い研究体制作りを考えなくてはならないと考えている。

医学系研究科はいち早く復旧

理学部や工学部のある青葉山キャンパスは被害が甚大であり、火災や崩壊の危険があるということで立ち入り禁止となった建物も多数あった。こういう事情もあり、大学全体としては、学部学生は帰省、大学院学生もなるべく帰省という方針をとった。

しかし、医学系研究科は大きな被害は免れ、週の明けから復旧に向かって動き出した。ぐちゃぐちゃになってしまった研究室の片づけは自らの手でやねばならないと考え、一刻も早く元通りの研究活動に戻ることを目指した。

早速、14 日に災害対策本部を立ち上げた。まずは学生と教職員の安否確認を最優先に行った。災害対策本部としては、

学生や教職員に対する情報発信、そして外部への広報活動を重点的に行った。

ライフラインが復旧していない状況ではあったが、地元へ帰省した大学院生になるべく早く仙台に戻ってきてもらい、また、教職員には大学へ出勤して頂き、復旧作業にあたって頂いた。ただ、震災直後は食べ物も手に入らない状況であり、最初の 2 週間は医学系研究科災害対策本部で食料を調達し、昼の炊き出しを行った。

復旧に当たり最も苦勞したのは、動物実験施設の維持であった。震災直後はガスが使えなくなったため、蒸気が来ないので滅菌操作が行えなくなってしまった。動物飼育数を震災前の 7 割に減らし、また筑波大学から 500 キロの滅菌大鋸屑を支援して頂き、何とか対処した。

お彼岸の 3 連休が明けた 22 日からは多くの研究室で研究活動を再開することができた。医学系研究科は他の研究科と比べて被害が少なかったこと、復旧作業が速やかに進んだこともあり、東北大学の中ではいち早く復旧することができた。自らの食べ物の確保すらままならない状況のなか、教職員の皆さんが懸命に復旧活動をして下さったからに他ならない。

研究科の専門性を活かした支援

大学病院では、震災直後から被災地域の病院や避難所へ向けての支援を開始していたので、医学系研究科としては、それを協力補完する形での支援活動を行った。

沿岸地域からヘリコプターで運ばれてきたものの軽症のため入院とならなかった方は、大学病院近くの木町通小学校や第二中学校の避難所に入った。そういった方を支援するために、研究科の医師や保健師を避難所へ派遣して健康や医療の相談を受けるようにした。

また、感染症の支援、PTSD の方たちの支援、さらに、高齢者介護の問題、認知症の問題、てんかんの問題などに対して、医学系研究科の専門家が相談にのり、マニュアルをホームページに載せて発表するなどの支援を行った。

復旧から復興へ

東北大学は、「研究第一主義」を掲げ、素晴らしい研究成果を次々と世界に発表してきた。その一方で、東北地方の病院は、私たち東北大学医学部の卒業生が、地域の医療を守るために作ったものが多い。私たちの先輩はこうにして東北地方の医療を守ってきた。これもまた同窓生の方々が成し遂げてきた立派な実績である。私たちは、地域医療を今後も守っていかなくてはならない。

東北地方は元来医師不足と言われているが、東北大学医学部は地域医療の再生に向けて精一杯努力していきたい。1つ

のアイデアとして、高度情報化社会に対応すべく、病院組織を作り変えて、メディカルインフォメーションを駆使した、スマートクリニック、スマートホスピタルといったものを考えている。新しい地域医療のモデルとなるような病院システムを構築し、地域に向けて情報発信できたらと考えている。

また、研究基盤の整備を行い、新たな研究拠点を東北大学医学系研究科に作り、最先端の研究成果を世界に向かって発信していくことのできる大学として復興したい。以上2つのことを、同窓生の皆さんと力を合わせて成し遂げていきたいと考えている。

震災後、国内のみならず全世界から支援物資を送って頂き、また、「実験設備が復旧するまでうちで実験をさせてあげますよ」といった温かい申し出を多数頂いた。日本国内のみならず、全世界から心温かい支援をして頂いたことに感謝している。

このような温かいご支援に応えるべく、私たちはいっそう頑張っていかなければいけないと考えている。

多くの大学院生の入学を お待ちしております

中山啓子 医科学専攻長

医学系研究科より、震災後の大学院教育について、ご報告させていただきます。

今年度は、例年より約1ヶ月遅れて新生を迎えました。在校生を対象とした講義などは少しスケジュールを組み直しましたが、大きなカリキュラムの変更をせず教育活動を行っています。

震災後、自宅待機となる研究科が多い中、私たちの研究科は分野長の責任において研究・診療活動を継続することとしました。その結果、多くの在校生が被災された方たちの救援活動に参加し、大学院生の努力によって研究活動も非常に早く再開することができました。外国人留学生は被災後、本国へ帰国しましたが、彼らもほとんどが再来日し研究を再開しています。

震災で損害にあった研究機器もほとんど修理が終わり、以前とかわらないレベルの研究を行っています。

しかし、復旧への努力をここで止めることなく、大きな被害を受けた東北地方の基幹大学として、東北地方そして日本の医療の進むべき方向性をしっかりと見極め、その場へ指導的に参画できる医師の育成を目標に、来年度より一層魅力的なカリキュラム編成を展開し、また学生への経済的支援も充実させる予定です。

同窓会の先生方には多くの物心ともにご支援いただきました。大変感謝しています。

まだ具体的にお話しできる段階ではありませんが、東北の地の復興には東北大学での研究の発展が必須であるという認識があり、さまざまな復興プランの支援を受けて、大学院教

育は充実発展が期待されています。医療現場で活躍している若手医師を大学院生として受け入れ、ともに新しい医療の開拓を目指していきたいと思っております。

同窓の先生方にもご支援、ご助言をよろしくお願い致します。

東北大学病院

被災地域の後方支援に徹底

里見進 東北大学病院病院長

震災発生直後、東北大学病院は直ちに災害対策本部を立ち上げ、迅速に震災後対応にあたった。

幸い、仙台市内陸部は大きな被害を免れ、大学病院としては、沿岸地域を疲弊させないように、後方支援に集中した。今後は、壊滅的被害を受けた沿岸地域の医療の立て直しに尽力したい。

迅速な対応 野戦病院化を回避

震災当日、大学病院もかなり強い揺れに繰り返し襲われた。私たちは地震後直ちに新病棟4階に災害対策本部を立ち上げ、病院全体の被害状況と安全を確かめた。幸いにも患者さんや職員に人的被害はなかった。建物に関しては、東西新病棟は免震構造のためほとんど被害がなかったが、研究棟は損傷が激しく、3号館の検査室は使えなくなってしまった。中央診療棟手術室は落下物が多かったが、手術は所定のところまで続行した。外来棟、旧管理棟、新外来棟では漏水などの被害があった。ICUでは自動電源への切り替えが行われたが、吸引ガスが停止し、人力で注射器を使って痰を吸い出すことも行った。

震災後の対応と回復に全力を尽くした

病院には非常用電源、重油3日分、患者用食糧備蓄3日分、薬剤備蓄があったが、不足することが予想された。震災当日、東京にいる東北大学関係者や他の国立大学病院などに食糧、生活用品、医療機器、医療材料の搬送を要請したところ、翌日から沢山の支援物資が届いた。これらの支援物資は、他の病院の支援にも利用することができた。

周辺から多数のけが人の来院、搬送が予想されたため、トリアージポストを設置し救急診療を行った。地震当日、周囲で電気が灯っていたのは、東北大学病院だけであったので、避難民が多数来院したが、病院としての機能を維持するために、避難民の受け入れは全て断った。ただし、透析患者や在宅酸素療養患者は、当院にかかっていない方でも受け入れるようにした。結果、これほどの大災害であったにも関わらず、野戦病院化する事態は避けられた。

周囲の病院機能が低下しており、化学療法、放射線療法、手術などの治療を延期している患者が多数いると考えられた

ため、当院では一刻も早い病院機能の回復を目指した。

震災後2〜3日目には電気が復旧し、透析室の検査機器を利用して簡単な検査を行えるようになっていたが、全面的に復旧させるために検査室を被災した3号館から西病棟13階に移した。3月16日より放射線治療、3月22日より化学療法、外来診療を再開することができた。

大学病院は「最後の砦」に

被災地の関連病院にいた医師を通じて各地の情報が入ってくるようになると、大学病院に来る患者は想定より少なく、石巻日赤、気仙沼市立、県南中核、大崎市民などの被災地域の病院への支援が必要なが分かった。震災後3日目から、マイクロバスに診療チームが乗り込み、物資、医薬品、食糧を積み、連日の定期運航を始めた。東北大学病院として現地の情報を収集・整理し、できる限りの支援をした。集めた情報は県にも報告するようにした。今回の震災ではケガ人は少なく津波による死者が多いことが特徴的であった。

避難所には多数の避難民がおり、1か月以上の長期に渡って活動する医療支援チームを派遣することが必要と分かった。被災地をいくつかのエリアに分け、県や自治体に対し長期医療支援チームの派遣案を提案し、他の国立大学病院のチームにも入っていただくことで、4月までの医療体制を整えた。

東北大学はこれらの医療チームには加わず、様々な病院への医師の派遣や耳鼻科、眼科、精神科、感染症、てんかんなど特殊な科の診療支援を行うことにした。眼科、耳鼻科、皮膚科の3科合同診療チームでは、東北大学がチャーターしたバスで患者を集め、効率よく診療を行えるようにした。

宮城県北部沿岸地域は壊滅的被害を受け、ほとんどの病院が機能停止に陥ってしまい、石巻日赤や気仙沼市立病院に、周辺からの患者さんが集中し病院機能が止まってしまうことが危惧された。東北大学病院ではこれらの病院からの患者さんを全て受け入れ、要請も全て受け入れることにした。このため、軽症や治療が終了した患者さんには退院していただいで空床を作り、受け入れ態勢を整えた。前線の病院には疲弊しない程度に頑張るよう励まし、人でも物でも必要なものをこちらに要求するようにメッセージを出した。なお、福島原発の放射線被曝については、万全の受け入れ態勢を準備し、検査済み証明書の発行や除染を行えるような準備も行ったが、来院者数は200名程度と少なかった。

東北大学病院は後方支援の役割にまわり、まさに医療の最後の砦として機能できたと考えている。

食料と通信の確保 教訓として生かそう

大学病院では普段から宮城沖地震を想定した実地および机上の訓練を行ってきたので、スムーズに震災後対応ができ、大きな混乱を生じるようなことは避けられた。これまでの災害訓練の経験が活かされた。その一方で、今回の震災でいく

つかの問題点が浮き彫りとなった。

東北大学病院ではこれまで患者分の1,000食、3日分の備蓄を保有していた。しかし、通常、勤務する職員が約2,500人おり、職員分を含めると、1日で10,000食以上を消費する計算になる。これまでの備蓄は患者分しかなく、十分なものではなく、今後食料備蓄を拡充する必要がある。

第2に災害時に利用可能な通信手段の整備が必要だ。今回は、県から各病院にMGA無線が配られ利用することができたが、衛星通信機器を備え、その使用法に習熟しておく必要がある。また、通信手段の技術向上も望まれる。

また、医療支援チームを、統制して、現地へ無駄なく送り込める体制を整える必要がある。一時期多くの医療支援チームが現地入りしたものの、救急治療を必要とする患者が少なかったため、ほとんど何もせずに帰ってしまうというケースもみられた。従来は短期間の治療チームが主体だったが、今後は長期間の医療支援チームを効率よく派遣できるよう体制を整える必要がある。

医師不足の深刻化を危惧

避難所の数は徐々に減ってきているが、現地の医療支援チームも疲弊している。長期滞在型医療支援チーム態勢が必要で、複数の国立大学病院でチームを組み、長期にわたり支援ができる体制を整えている。前線病院への医師派遣が落ち着いたので、東北大学も長期派遣チームを1〜2組作り、県や市の医師会チームとともに宮城県医療チーム4組ほどで長期の支援体制を組めるか検討を開始した。

被災地は従来より医療過疎地域であったが、今回の震災により医師不足がより深刻化することを危惧している。診療所を失った医師が自力で診療所を再開できずに、東北地方から出ていくことがないよう支援をしていきたい。また、被災地域で研修医が激減するという事も考えられるので、何とかしてこのような事態は避けられるよう、対策を講じたい。

被災地域の復興計画を考える段階に入ってきている。大学病院としても、被災地域の医療が崩壊することのないよう、今後も継続した支援を行う。復興に際して被災地域の町づくりに参画される同窓生の方々には、今までとは全く新しい発想で理想的な町作りを考えて頂きたい。

今後も継続的な支援が必要

松岡洋夫 東北大学病院精神科教授

3月11日の震災により、沿岸部の病院は壊滅的な被害を受けた。大学病院精神科では医局員を被災地へ派遣したり、県内の他の病院に患者を引き取ってもらうなどした。しかし、受け入れ先の病院が満床になるなどの混乱もあった。地域医療の基盤が失われたことによる被害は莫大であった。もともと日本は入院型医療が中心であったが、その脆さが露呈してきており、これを機に地域医療にさらに力を入れるターニン

グポイントに来ていると言えるかもしれない。さらに、今後は支援者や『はさみ状格差』の患者の心のケアの対応も考えていく必要がある。

震災後の精神科としての対応

震災直後から被災地に精神科の医局員たちを交替で派遣する活動を続けている。加えて他県からの医療チーム、チームで来られない精神科医の方には、我々のチームに入って頂き、支援を続けている。現地での当初の医療活動は、元々精神疾患を患っている人への治療と今回の震災によるストレスを契機に発症した人々への治療の大きく2つに分けられる。4、5月はDMATや医療救護班に、精神科も入るようにした。震災後2か月間は、東北大学病院に入院してきた方々の大半は、もともとの精神症状が震災を契機に悪化した人で、その対応に追われていた。沿岸部の壊滅的な被害を受けた被災地の病院やクリニックでは医療を続けられなくなり、患者を宮城県内の他の精神科病院などに引き取ってもらう形で対応した。その結果、受け入れ先の病院が満床になるなどの混乱もみられた。従来の精神医療を支えていた基盤が失われたことによる影響は極めて甚大であった。

地域の保健師の活躍

震災により多くの病院が機能麻痺に陥り、被災地の患者は被害を免れた病院に行こうと思っても、交通手段がないために受診できないという状況であった。ここで、被災地で活躍したのが保健師の方々である。各地域の精神疾患患者の情報は、地元の保健師が把握しており、震災直後の混乱のなか、患者の状況把握に尽力して下さった。

予防的医療を行う精神保健は、県、各地域の保健所、市町村が分担して行っている。地域によって、震災による被害、震災前の精神医療の形態が大きく異なるため、福祉的、予防的な精神保健を十分に施せない状況が、震災から3か月経過した現在でも続いている。

県や民間と意見交換

いまだに精神的問題を抱えている方は多く、しかも精神医療を十分に供給できていないのが現状である。心のケアに関しては、避難所や被災地を巡回するチームを派遣しており、精神科医、心理士、看護師などの医療スタッフが数名で医療支援チームを組んで、精神的なケアを行っている。

当初は、かなりの数の心のケアチームが全国各地から駆けつけてくれたが、一段落して引きあげ始め、現在は医療支援チームはかなり少なくなってしまった。これからはできるだけ自前でやっていく必要がある。

そこで、現在は宮城県、大学病院、民間施設が中心になり、意見交換をしながら支援活動を行っている。地区によって被害の差やもともとの精神医療の形態が違っていたので、各地域の保健所機能、病院機能、医療支援チームの派遣状況、と

いった情報を地域ごとに把握しながら刻々と変化するニーズに対応している。現在、今後の中長期的な対応策を考えているところである。

これまで元気だった人も要注意

震災直後の混乱は落ち着きつつあり、今後、精神科の立場からは中長期的な対応が重要となってくる。

今後は、「はさみ状格差」が問題になってくることが予想される。「はさみ状格差」とは、早く立ち直っていける人と立ち直れない人と、二極化していくことを指す。震災当初は、多くの人が避難所に避難し、皆で体験を共有しており、何とか耐えている。現在、仮設住宅に徐々に入居しはじめている時期であるが、復旧・復興の度合いに差が出てきており、取り残されてしまう人が出てくるのが危惧される。また、家で一人である時間が長くなると、悩みを話す相手もないことに加え、震災から時間が経過し、慢性期のストレス反応を呈する方も出てくると考えられる。

加えて、PTSDやうつ、アルコール問題、引きこもり、そして支援者自身の精神的問題も見過ごすことができず、精神的な対応が必要な問題は非常に多い。支援者には、初期は消防署、警察官の方、また今でも役場の職員の方々の方々は休みなく働き続けている。避難所の運営、行方不明者の捜索、遺体の収容、など自分のことを棚に上げて、頑張っている。しかし、こういった支援者の方々自身の中にも、家を流されたり、親族を亡くした方も少なくなく、非常につらい状況であるのは間違いない。これまで支援に回っていた人々が、今後「燃え尽き始める」ことが危惧されるが、そういった方のケアもしなければならない。そこで大学病院精神科では、支援者のためのストレス外来を設置し、対応することを計画している。

地域医療中心型の精神科医療の実現へ向けて

今回の震災では、派遣された医者が短期間しか滞在しないために、1人の患者さんに対して医療が一貫して継続できない、という問題があった。長期的に滞在できる人が対応するのが理想的であるが、マンパワーの問題がある。

欧米と比べると、日本は地域医療体制が未発達で、入院医療中心であり、その脆さが露呈したと考えることもできる。世界的な精神科医療の流れは、出来るだけ入院に頼らない、地域医療を中心とするものとなってきている。

我々は、去年より、精神科の地域医療を目指す精神疾患対策基本法の制定の要請を国に対して行っている。この法律案では、医療者側が出向くアウトリーチ型の医療、そして精神科以外のスタッフも含めた多職種による医療チームを目指している。地域医療が充実することで、病状が軽いうちに、地域で患者を把握することができる。現状のように、重症化してからようやく病院に来たがために、長期の入院を余儀なくされるといったことが減ると期待される。

これにより、入院設備が必要になることも少なくなり、他の医療先進国のように、病床数を現在の数分の一ほどに抑えられるはずである。他の医療先進国もかつては入院中心型であったが、地域医療基盤を整備し、地域医療を中心とした精神科医療体制の構築に成功した。

地域医療の基盤がもう少ししっかりとしていれば、今回の震災後に、よりよい精神科的ケアをより多くの人々に提供できたはずだ。我が国も、精神疾患対策基本法の制定により、入院型医療から地域医療中心型医療にシフトするターニングポイントに来ている。

学生ボランティアの活躍

東日本大震災の爪痕は大きく誰しもがその被害の大きさに驚き、絶望した。しかしながら復旧にむけてボランティア活動が積極的になされた。本学でもボランティア組織が設立され、多くの学生が運営部、実動部など種々の立場で活躍した。その学生達の活動を取材した。

東北大学地域復興プロジェクト HARU

津川靖基 広報部

HARU は、東北大学の学生が立ち上げた組織である。組織名である HARU は、被災地の復興への思いを込めて名付けられた。

主に、山元町での避難所運営補助、支援物資支援、個人宅清掃、炊き出し等を行った。山元町への支援活動は、川内キャンパスから毎日バスを運行し、ボランティア学生 40 名程度を毎日派遣した。

その他、気仙沼市へ衣類、および気仙沼市の小中学校へ学用品類の物資支援、仙台市内の老人施設介護の手伝い（配膳、掃除、物品の移動など）、東北大学図書館復旧作業、石巻地区の瓦礫処理手伝いも行った。

全てがはじめての経験だった

ボランティア組織を立ち上げるのも初めて、ボランティアをするのも初めて、これほど大規模な震災も始めてでしたので、HARU の立ち上げから運営全てが、初めての事、誰も経験したことのない事だったので全てに苦労しました。もちろん、今の HARU の形態がベストな形だとは思っていませんし、これから徐々にですが、修正していかなければならないと思っています。全ての人が初めてだから、答えなんてないと割り切ってやっています。またボランティアのマッチングには非常に苦労しました。多くのボランティアの依頼の中から自分達の身の丈にあっていて、無理のないものを、無理のない範囲で選んで行くことは大変難しいものでした。中には自分達のできる以上のことをやろうとして失敗した例も

ありました。

今後の支援活動に関して

これまでは外部からの要請に応えるものがほとんどでしたが、今後は様々な専門知識や経験を持った学生で企画・提案し、より能動的なボランティア活動もしていきたいと思っています。また、より円満な支援活動を進めるために、大学の復興支援室に機能の一部を委託することも現在考えられています。

ジャパンハート

藤原翔 医学科 4 年

私たちのボランティアには約 50 人の東北大学の学生が参加しました。その他に、宮城教育大学や秋田大学、山形大学、東北地方以外の全国各地の大学からも参加がありました。活動内容としては津波の被害にあった診療所の復旧から避難所の手伝い、医療チームのサポートなど様々でした。

活動場所の多くが津波の被害の大きかった沿岸部であり、現地の状況が刻一刻と変わるため、その時点で何が必要なのかを把握することが大変でした。今回の活動の成果はテレビなどを通じて実感することが出来ました。しかし、今後の継続したサポートは必要です。今後、学生が継続的に現地へ行くことは難しいかもしれませんが、現地へ行けなくても出来ることは沢山あります。みなさんも是非考えてみてください。

Mets-Japan

櫻田京子 医学科 4 年

私たち活動していたのは 20~25 名ほどです。登録のみでしたら 50 名近い人数の東北大生がしてくれました。活動内容としては、被災地区の小中学校で学童保育、中学校で校舎・校庭の清掃、避難者の話し相手、気仙沼地区の離島へ物資運搬など。小学校以外では力仕事为主でした。

運営する際にはボランティア側も被災者であるので、頑張りすぎて倒れるということのないように気を配りつつ被災地の皆さんのニーズに応えるのが大変でした。

多くの学生が、自分たちも被災者であるのにも関わらず快くボランティアに参加し、熱心にボランティア活動に励んでくれたことがとても感慨深かったです。被災地の方々からお礼を言われたり、手紙をもらったりと人の心の温かさを感じました。同時に、震災という特殊状況下で急ごしらえのボランティア組織を運営していくということがいかに大変か、身を持って経験したように思います。その場その場で変化する状況に対処していかなければならないので、運営だけに徹するわけにもいかず現地でのボランティア活動をしつつ組織運営する、という毎日だったので、運営側本人たちが体調を崩すこともしばしばでした。それでも震災後 1 ヶ月間近くの

間ボランティア組織を滞りなく運営できたのはボランティアに参加してくれた学生や、被災地の方々の協力と励ましのおかげです。

——被災地ボランティア 参加学生の体験記——

人々の温かい支援に心打たれる

石田啓之 岩瀬遼 医学科3年

この東日本大震災では、私たち東北大学生の多くが仙台において被災しました。その後の原子力発電所事故による放射線の影響や風評被害に苦しむ友人も居り、報道されることのない、被災地の生の声を耳にするたびに心が痛みます。

私たち東北学生震災復興団体 A4T (ALL FOR TOHOKU) は、仙台から地元へ避難してきた東北大学の学生が中心となり、東北地方の支援活動を行う団体です。

A4T は全国各地に支部をおいて活動を進めております。現在、青森県、秋田県、栃木県、東京都、神奈川県、大分県に支部があります。

A4T 東京支部は、都内における街頭募金活動を進めてきました。新宿駅周辺で8日間(3月25日から4月1日)の募金活動を行い、511万331円の義援金を皆様からお預かりしました。

A4T では、各支部では集めた義援金の全額を一括して日本赤十字社に寄付し、被災地復興に役立てていただこうと考えております。

実際に活動してみても思うことは、被災地の復興のために協力して下さる方がこんなにもたくさんいるのだということです。街を通り過ぎていく人は見ず知らずの大学生に対して、千円札や一万円札を惜しみなくいれてくださいます。

東北大学の校舎や、仙台の街並みの様子を気にかけて下さった方もいました。この活動のやりがいを感じました。

今後、被災地の皆様の声を発信するとともに、街頭での激励の声を被災地の方々にお届けいたします。

思い違いに気づく

谷山禎彦 医学科5年

南三陸町にボランティアに行くを決めたとき、私はとても意気込んでいた。困っている人のために何をしてあげようか……。それは純粹に善意のつもりであった。

しかし、実際にボランティアに赴くと、そこに少し思い違いがあったことに気付いた。

懸命に生活している被災地の人々のたくましさや、そこに隠れている大きな悲しみを目の当たりにして、自分の考えていた善意が実は善意に紛れた自己主張であり、それゆえ無力であることに思い当たった。

人々が本当に求めていたことは、何かを与えてもらうことではなく、彼ら自身の生活に潜むニーズを感じ取ってくれることであったと思う。

一人の若者が頭で考える行為でなく、その場で求められるニーズを聴き取ることから本当の善行は始まる。震災のボランティアに限られたことではない。医療も含め、すべての社会活動において、この体験が何かのヒントになると感じた。

目の前のことから確実に

榊一臣 医学科4年

5月9日、私は漢方内科のボランティアに参加した。石巻の2か所の避難所でマッサージの施術を行うというものである。最初に行った避難所では、私を含めた初参加の学生たちが先生と共に、マッサージ室を訪れる方々にマッサージをしたのだが、当初は私の施術が被災者の方に満足されているか不安であり、会話もたどたどしかった。だが先生方のご指導もあり、徐々に落ち着いてできるようになった。午後は別の学校で、各自、被災者のもとを回るようになった。慣れつつあった私は、避難されている方々と世間話を楽しめる余裕もでき、個人的に満足しつつあった。しかし、いざふと我に返ると、私がマッサージを施している方々は少なくとも家を失っている。中には家族を亡くした方もいるだろうし、知人を亡くした方も多いだろう。そのような環境下に置かれた方々に私がしていることなど、どれほどの助けになっているのか。しかしそれでも、現にボランティア活動に精を出している先生方のように、今できる確実なことをしっかりと為していくことが大事なのではないかと思った。今後も行き詰ることは大いに起きうる。その際は今回の経験を糧にしていきたいと実感したGW最終日であった。

思い出サルベージ

武田一也 医学科5年

私は春休みの間いくつかの団体でボランティア活動に参加させていただいていたのですが、新学期が始まった後も何か出来る範囲でボランティア活動を続けていきたいと思い、土日を利用して日本社会情報学会(JSIS-BJK)災害情報支援チームの「思い出サルベージ」という活動に参加してきました。被災地では多くの命が失われるとともに、思い出の詰まった写真やアルバムが流出して泥をかぶってしまいました。そうした写真やアルバムを洗浄し、持ち主を探すとともにデジタルデータ化して保存していこうというのが「思い出サルベージ」の活動です。私は写真が趣味ということもあり、本活動への参加を決めました。周りの人達が医療ボランティアや家屋の片付けに従事する中、写真を救うことにどれだけの意味があるのだろうか、という気持ちも最初はありました。しかし結婚式の集合写真や、子供の成長記録のアルバムなど

を丁寧に洗浄して記録する中で、こうした思い出の保存が、復興に向けて地域の人々が歩いていく中で必ず支えになるだろうと思いました。これからも定期的に活動に参加し、被災者の方々但至少でも多くの思い出を届けていきたいと思いません。

医師を志す原点を再確認

槇野絵里子 医学科5年

GW 期間に、大学病院の往診ボランティア（眼科、糖尿病代謝科、漢方内科）に同行しました。眼科では眼科往診用のバスでの診察や処方、糖尿病代謝科では処方や生活指導、漢方内科では避難所の方々のマッサージを行いました。

多くの避難所や住宅を訪問しましたが、震災から1か月以上たっても水道や電気を使えなかったり、満足に食事を取れない所も多く、不安で眠れない夜が続くなど、厳しい生活を強いられていました。

「目の前で津波に飲み込まれていく女の子を見たがどうすることもできず、まさに地獄絵図だった」「私は3回津波に飲み込まれたが、これがそのときついた重油のシミだよ」といった声。3月11日の時間割が書かれたままの小学校の黒板。津波到達の時間のまま止まっている時計……これらは、ニュースや新聞で見聞きするよりもはるかに強く私に訴えかけてきました。

そんな中で、元気な笑い声をあげながらドッチボールをしている子供たちの姿、空手の発表会をする子供たちへの人々の温かい視線がとても印象に残っています。

避難所の皆さんが先生方の姿を目にした時の安心した様子と、先生方が避難されている方の気持ちに寄り添いながら的確に対処していく様子を目の当たりにしたことで、医師になることの素晴らしさと責任の重さを再確認する機会となりました。

新たな絆が結ばれる

板垣皓大 医学科3年

実家にいた私が4月に仙台に戻ったとき、自分もつとこの震災に関わっていきたくて考えた。そして、被災者の方々の気持ちを少しでも理解したいと思った。

東北大学の全学的なボランティアサークル HARU が結成されたと知り、すぐに参加することにした。

主に宮城南部に位置する山元町に行くことになり、結局十数回足を運ぶことになった。

被災地は震災後1ヶ月が経過していたとはいえ悲惨なものだった。町民の方々の会話の中で、亡くなった方の話が出てくると心が痛んだ。

しかし、町民の方々は皆明るくこちらがむしろ心が救われたし、思いがけずボランティア活動を通して他学部の友人も

多くできた。

確かに震災で失ってしまったものは数え切れない。だが、新しい絆が結ばれつつある。この絆が東北復興の一つの原動力となることを私は願っているし、また自分もその一助となるよう医学の道に精進していきたい。

気仙沼市立病院

困難に立ち向かった災害医療の最前線

成田徳雄 気仙沼市立病院

3月11日の地震後、気仙沼市立病院では院内の患者はもちろんのこと周辺市民の治療、健康維持のために奔走してきた。しかし、その活動はテレビや新聞ではあまり取り上げられてこなかった。幾多の困難が立ちふさがる中どのようにして市民を守りぬいたのか、現場では何が起こっていたのかを知るため、我々編集委員は気仙沼へ赴き、実際に活動してきた医師に話を聞いた。

30分で患者受け入れ態勢完成

病院内の医師たちは、地震が発生してすぐに病棟患者の安否確認を行い気仙沼市立病院グループ災害マニュアルに従って救急室前にテントを作成しトリアージポストとした。トリアージポストとは医師や救急救命士などがいち早く負傷者の重傷度・緊急度判断する場所であり、大規模災害・多数傷病者発生時において欠かせないものである。

地震発生後約30分後にはこの体制が完成していた。これほどまでにスムーズな体制構築ができたのは、年1回程度行っていた机上トリアージ訓練や平成19年に実施した病院全体のトリアージ訓練の成果と言える。その後も病院スタッフは休むことなく、津波を逃れて病院に避難してきた市民をさらに高台にある避難所へと誘導し、今後搬送されてくると予想される大量の患者対応の準備を進めた。

食料と電力の確保に奔走

震災後直面した大きな問題は食料、電力不足であった。

食料は数日分の備蓄しか病院内に残っていなかったため、12日にNHKの取材を受けて全国に食べ物の寄付を呼び掛けた。すると、県内外の民間人からコメや保存食品が次々と寄付された。2~3週間後には国や県の本格的な支援が始まり、食料が尽きるという最悪の事態には陥らなかった。

電力は、病院内に2機ある自家発電装置によって賄われていたが、それを動かすための重油の不足が懸念された。幸運にも、市内のガソリン販売会社が各ガソリンスタンドや壊れた重油輸送車から重油を抜き取り病院に移転してくれた。さらに、病院スタッフが宮城県災害対策本部にも掛け合い、重点的に重油を補填してもらった。確約を得た。

病院長の遠藤渉先生は「国や県の支援が始まるまでの民間の協力がなかったら病院は立ち行かなかった。」と、善意で寄付をしてくれた人々への感謝の気持ちを表した。

慢性透析患者の広域搬送

震災後、気仙沼・本吉地域における透析医療機関は気仙沼市立病院だけとなっていた。近隣の病院は倒壊したところもあったために、透析患者が次々と気仙沼市立病院へ流入し続けており、十分な医療行為を行うには透析患者の県外搬送が必妥となった。慣れた環境の気仙沼市立病院から見知らぬ土地の病院への搬送のため、拒絶する患者もいた。しかし、この搬送は患者を見捨てるというのではなく、今までの治療水準を保つために必要であり、患者自身の健康のためなのだとして医師たちは熱心に事情を説明した。阪神淡路大震災の事例で、医療水準が以前のように保てないにもかかわらず病院内にとどまり続けた患者は、他の環境の整った病院に移転した患者と比べて、健康水準に明らかな差が出ていたことを気仙沼市立病院の医師たちは知っていた。そのため患者への説明に、より一層の熱が入った。その成果もあつてかほとんどの患者が県外搬送を了承した。

この搬送に関しては多くの団体の協力があった。12日から現地入りしていた東京 DMAT（東京都の病院の救急医療チーム）や各種医療救護班、東北大学、自衛隊などである。3月19日に気仙沼市立病院から東北大 DMAT が同乗したバスで東北大学へ移送した。東北大学を Staging base（搬送時の休憩地点での患者のメディカルチェックや安定化を行う場所または機関）とすることで長旅に備えた。3月22、23日の2回に分けて航空自衛隊松島基地から千歳空港までを県庁災害対策本部の DMAT 同乗の下、自衛隊機による広域搬送を行った。3月25日には松戸までは東京 DMAT 同乗の下バス搬送を行った。多くの関係団体の総指揮にあたった災害医療コーディネーターの成田徳雄先生は、「自分の仕事は、様々な情報をグループで共有したうえで各団体の専門性を生かせるように環境を整えることだった。Staging base の役割を引き受けていただいた東北大学をはじめ、関係者には感謝の気持ちでいっぱいです。」と、謙虚に語ってくれた。

まことの人はもとより 賢愚得失の境にあらざるなり

成田先生は震災中、多くの団体が共同して最大限の成果を生み出すために Network centric operation (NCO) という考え方を導入した。これは、活動するグループを上意下達で単一の指揮系統で統制するのではなく、現場の各団体、個人の自律性を重視し、情報収集・伝達を速やかに行い、情報・任務の共有とともに多様なリソースを自由に組み合わせ、設定した目標のために現場で自律的な Network を形成しながら調整・運用を行っていきやり方である。この方法により、柔軟かつ迅速な対応が可能になった。成田先生も「真の意味でのチーム医療ができた」と手応えを口にした。病院スタッフは、

以上にあげた以外にも在宅患者への往診、心のケア、インフルエンザ対策など様々な活動をしていた。人も物資も十分でない状況下でそれだけの活動をしていたのは驚きである。今回の取材を通して一つの言葉を思いだした。

「まことの人はもとより賢愚得失の境にあらざるなり。」

意味は、「本当に立派な人というのは、世の中の評判や利益などを気にする境地にはいない（ので、世間の人たちには気付かれない。）」（吉田兼辞灯、「徒然一早、38段」より抜粋）

気仙沼市立病院のスタッフの方は自分の家族の安否確認もできず、とても冷静でいられないような状況下の中で働き続けていた。それにもかかわらず、自分たちの功績を声高に叫ぶこともなく、協力してくれた人々への感謝の気持ちにあふれていた。もちろん大人の大人は自慢話などを大々的にはしないだろう。しかし、誰しも心の中では自分の善行を誇らしく思ったり、その善行の話が広まることで自分の株が上がることを期待する気持ちをもったりするだろう。ここの病院のスタッフの話の聞いていると、そんな風に考えていた自分の未熟さに気付かされた。彼らはただただ自分の職務を全うしただけだという涼しい顔なのだ。

昔ドラマや映画で憧れた、天才的にかっこいい医者は現実ではないのだな、と年を重ねるにつれてわかってくる。しかし医学部に入って膨大な量の知識を得るためにはある程度努力しなくてはならない。その努力をし続けるために何らかの目標や近づきたい人物がいたらなあとも思う。この気仙沼病院の人たちは派手なかつこよさはないけれど、いや、派手さがない分憧れとして、今の自分には到底届かない現実的な存在として立ち現われてくる。いつか自分もあんなふうになれたらなんと、幼少時にドラマや映画の主人公に憧れた気持ちが今再び蘇ってきた。やはり、医者は素晴らしい職業だ、そう思わせてくれる先生方が身近にいて、お話を伺えることだけでも医学部に入ったのは間違いではなかった、と感ずることができた。

故郷のニーズに応えるために

大沢伸一郎 脳神経外科

孤立した病院

津波で壊滅的な被害を受けた沿岸部ではほぼ相互中央との連絡が不可能となり、最寄りの都市・仙台にすら情報発信できない状態となった。私も故郷・気仙沼の家族と連絡が取れず、その捜索を含め医局の気仙沼派遣として単独で動く許可を得て3日目（14日）に気仙沼入りした。独力で向かうことはできず、仙台中の各 DMAT 本部に交渉して道案内人として乗せて頂いた。沿岸を走る道路は津波によって寸断され、山道を通るルートのみがそれぞれの港町の生命線であった。市内にたどり着くと海の香り、火災の焦げた臭いがたちこめ、見はらすと市街や山の向こう、離島の島大などにも煙が上がっていた。気仙沼市立病院は14日まで DMAT 等・

外部からの応援はなく、やっと各々の判断で3チームが到着したばかりだった。病院では指呼の間にある市街地の情報すらなく、受診患者の話で道路が交通可能なことを推測するのみであった。避難所の情報もその所在以外は分からず、市立病院は地域の医療拠点にも関わらず市内の医療ニーズの情報が入っていなかった。

市立病院は眼下の市街が全て浸水し、職員の1/3が家を失い、施設は停電して救援もない中で丸3日を耐え抜き、その乱れぬ働きぶりは他県から駆けつけた救護班が感嘆していた。同門の脳外科・成田先生が災害医療のリーダーを務めておられ、その指示で私はDMATの道案内役として、市内を回って避難所の地図を作るのが仕事となった。リアス式海岸の地形は凹凸があって元々道路が複雑に絡んでおり、さらに震災のため到着処で通行止めとなっていた。各避難所へ全国からのDMATの方々が飛び回り、また新しい道を見つけては地図を拡げることを繰り返し、気づけば1週間余りの時間はあつという間に過ぎていった。ある時には母校や生家が津波に呑まれたのを目の当たりにして呆然と立ちつくし、避難所で親戚や同級生に会えては抱き合い、苦境の中でも何とか助け合って生きようとする人たちの姿には救護に当たった我々が逆に何かをもらった思いだった。

おしかけ医療とニーズ把握

このような災害にあつては、通信網が破壊された上に現地の職場は多忙を極め、現場のニーズは後方拠点に伝えられる余裕がない。被災地は救援を選び好みしているのではなく、何が必要かを伝える事すらできないのである。そのためこちらから「おしかけ」で駆けつける必要がある。現地は何もかもが足りず、自分で探せば無限のニーズが出てくる。自己完結型で働いてくれる人材を、被災地は今でも待っているのではないだろうか。

自分の役割

私は計2回気仙沼へ派遣されたが、その後は大学院生として研究生活に戻った。一時期は即時には役に立たない自分の職・立場を疎ましく感じる事もあったが、今は自分の立場で努力して成果を出す事が故郷をカブけると思い励んでいる。

最後に、大変な中でも私を送り出して下さった脳外科の冨永教授はじめ医局の方々に謝意を表し、稿を閉じたいと思う。

読者からの寄稿

精神科治療薬の被災地への提供

曾良一郎 精神・神経生物学分野教授

震災後、薬が手に入らず困る患者が多数現れることが想定された。交通インフラも壊滅的被害を受けたことから、公の

支援を待っている間に合わないと考え、自ら被災地へ精神科治療薬を搬送できるよう、薬の調達、搬送を行いました。

精神科治療薬の被災地への提供を、被災直後に自分自身でできることとして公の支援が始まる前に行いました。3月17日から日本神経精神薬理学会、日本生物学的精神医学会の後援により製薬メーカーや医療機関に緊急支援医薬品として向精神薬の提供をお願いしたところ、11の製薬企業、医療施設から向精神薬を合計、約75万錠の提供の申し出をいただきました。3月24日朝には中サイズの段ボール箱100個分の向精神薬が、東北大学東京分室に設営された医学部震災支援室が自ら手配された物資輸送ルートにより医学部に届きましたが、大学病院の薬剤部に入りきらず医学部のセミナー室で、保管・管理することとしました。薬の仕分け等の管理は東北薬科大学からのべ20人以上の薬剤師免許をお持ちの教員の先生方の協力が不可欠でした。24日当日にはご要望のあった福島県立医大精神科、仙台市精神保健福祉総合センターにお届けすることができましたが、どの地域に向精神薬が必要とされているかについての情報を得ることがとても困難でした。そこで、翌25日には宮城県東部では基幹施設である石巻赤十字病院、気仙沼市立病院にお送りすることにしました。

宮城県では3月末頃には薬の卸業者からの販路が回復してきましたが、岩手県・福島県沿岸部の精神病院で向精神薬が不足しているとの情報を得ましたので、3月29日には岩手医大、翌3月30日には福島県立医大に搬送しました。宮城県内であれば搬送の手段はあったのですが県外へは手配できなかったため、私自身の車に積み込み東北自動車道経由で岩手医大、福島県立医大にお届けしました。事前に、宮城県から緊急車両の指定を受けていたことが幸いしました。

緊急支援医薬品は公の支援ルートとして厚労省が日本製薬工業会（製薬協）に指示して被災地に届ける手はずになっていたそうです。しかし、向精神薬については岩手県、宮城県、福島県の精神科医療（こころのケア）チームには残念ながら届いていませんでした。大規模災害時の緊急支援医薬品支援には医薬品の集積、仕分け、搬送等の後方支援（ロジスティクス）のみならず、被災地の支援基幹病院、医療チームとの連携が欠かせないことを痛感しました。

3科合同診療バス 被災地を回る 眼科・皮膚科・耳鼻科

東北大学は被災地の南三陸町、女川町で不足している眼科、耳鼻科、皮膚科の診療を行うため、4月1日から5月末日まで、毎週金曜日に3科合同の無料巡回診療を行った。この間の4月7日には大きな余震があったため、翌8日は中止となった。長陵新聞からも2名の学生が参加した。

医師、看護師、視能訓練士、学生など約15名で朝7時半に、バスで東北大学病院を出発した。三陸道は被災地に向かう車で混雑しており、移動にかなりの時間を費やした。道路以外の場所には瓦礫が残り、元の町並みを想像することができな

いほどに破壊された瓦礫の町を目の当たりにし、改めて津波の恐ろしさを実感した。帰りのバスで眼科准教授の中澤徹先生にお話を伺うことができた。

この巡回診療は、地元の自治体に負担をかけないことを原則として、東北大学病院が準備し、費用もすべて負担した。

移動時間がかかるため、効率よく患者さんを診察するためには医師が各地の避難所を回るよりも避難所の患者さんを診療場所に集める方が良いと考え、5台のマイクロバスを用意し、避難所から患者さんの送迎を行った。

このバスにかかるガソリン代などの費用100万円の一部は、中澤先生の知人の眼科医が紹介してくれた大分県湯布院温泉観光協会の協力による寄付で賄われている。

—南三陸町では、4月半ばまで活動していたイスラエル国防軍の医療支援チームが建設し、残してくれた6棟のプレハブ診療所を使用した公立志津川病院で診察を行った。

女川町では、眼科は米マイアミ大のバスコム・パルマー眼研究所が無償で貸与してくれた Vision Van という全長11m、12tの大型バスを使用して診察を行った。これは2005年にルイジアナ州を襲ったハリケーン・カトリーナの際に活躍した、眼科検査機器を搭載した動く眼科診療室ともいえるものである。

このプロジェクトは慶応大坪田一男教授の尽力と、ロシアの航空会社の無償フライトなどの協力で実現した。仙台空港再開翌日の14日には Vision Van が到着し、翌15日から女川町で活躍している。

Vision Van は岩手と宮城を行き来して、被災地の眼科診療に役立てられている。(この契約期間は3ヶ月間だが、わが国でも、日本版 Vision Van を作ろうというプロジェクトが立ち上がった。)

耳鼻科、皮膚科は女川町総合体育館に設置された救護所で診察を行った。

眼科では緑内障、白内障、アレルギー性結膜炎などの治療を行った。

医師の話では、コンタクトレンズの予備やケア用品がないために、使用期限を越えて使い捨てコンタクトレンズを使い続けている人も多く、角膜感染症の危険性があるとのことだった。眼鏡を失くして困っていた人には、支援活動に参加している眼鏡店が無償で提供した。

耳鼻科では耳鳴やアレルギー性鼻炎など、皮膚科では東北大学の医師の他に日本皮膚科学会から派遣された県外の医師も加わって、脂漏性皮膚炎、アトピー性皮膚炎などの治療を行った。

震災後、初めて診察を受ける患者さんがまだまだ多かった。これらの科の疾患はただちに命にかかわるものではないが、不便な被災地の生活が長期化するにつれて、必要性が高まってくると考えられる。

未曾有の大災害を乗り越えて復興へ

高橋 明 神経病態制御学分野教授

被災地での検案

震災直後には文字通り虚脱状態で何もする気になれなかったが、週明けの14日からは医学部の災害対策会議や、病院の対策会議にわり、『今できることをしなくては!』と思えるようになった。教授会の席で、法医学の舟山先生から、沿岸地方の検案に協力いただけないか、という提案があり、すぐに連絡したところ、どうぞご参加下さい、ということになった。

3月18日(金)の朝に県警で打合せ会議があり、そのまま女川方面へマイクロバスで向かう。三陸道は突貫工事で再開にこぎつけたので、まだまだ橋のつなぎめや路肩の脱落などあり、地震のパワーに圧倒される。途中のパーキングでは各地からの支援部隊が詰めかけていて心強かった。石巻では、くるまが降っている、状態。万石浦から女川に入ると風景が一変。特に女川湾に向かう谷の部分は全てのものが津波で攫われ、文字通り壊滅的な被害。何度映像を見てもこの状況は実際に訪れてみないと分からない。

検案は女川体育館から石巻の旧青果市場に移動して行われた。ふきっさらしの広い建物の中に、450体ものご遺体が収容されている様はこれも体験しないとわからない。宮城県警の職員が絶対的に不足している。全体の律速段階であるご遺体の状況記録(デジカメ撮影を含む)をはじめ、全ての業務を他県からの応援の警察官の方々が黙々とすすめている。しかし、作業の進展スピードよりも、ご遺体が運ばれてくる速度の方がはるかに上回っている。身元が判明するのがざっと見た範囲では3分の2の方方で、残りは歯科のチームが歯のチャートを取る。これも大変な作業だ。(このために歯科のチームが、医科のチームの倍以上の人数となっていた)。更に必要な場合に心臓血の採取を私たちが行った。幸いDNA鑑定のための試料は、心臓血で可能で、爪床からのDNA鑑定が必要なご遺体には巡り会わなかった。とにかく底冷えのする作業で、ずらっと並んだご遺体の状況が目について離れない。(たまたま石巻で亡くなった知人が同じ場所に収容されたと聞いて、複雑な心境である)。

未曾有の災害で、必要な作業に、ご遺体への畏敬の念を失わずに粛々と進められている作業があることに敬意を表するとともに、自然を相手に人間のしてきたことのはかなさを痛感させられた。この経験を何らかの形で残りの人生に生かすことが亡くなられた方々の思いをつなぐことになる肝に銘じた。

復興コンサート in 大学病院

大規模災害時には普段あまり意識しないことを強制的に意識させられる。世の中や人生における芸術の意味や価値ということもその一つ。多くの芸術家が、自分の非力さを痛感し、

何のために芸術をするのだろうか、自問自答したことだろう。

仙台が世界に誇るオーケストラである、仙台フィルハーモニー管弦楽団は、幸い団員に死傷者なく、全員無事であったが、公演会場を失い、音楽が日常生活に必要不可欠でないゆえに、最初に切り捨てられるのではないかと、という危機的状態に陥った。たまたま近くにそのような団員の方々がおられたので、その対応に注目していた。

震災から2週間の3月26日に、オーケストラ発祥の地といわれる見瑞寺でのコンサートを皮切りに、自らの演奏で被災地、被災者を励まし、同時に聴衆からエネルギーとパワーを受け取るという、「音楽の力による復興センター」の活動がはじまった。小生はこのような非常時に芸術が力を発揮できるのか多少の心許なさを感じていたところだった。もともと仙台フィルは草の根の音楽活動を県内くまなく巡回演奏するという形で展開する中からできあがってきた歴史と伝統を

持っていて、それが今回の外に出て行く活動につながったのだと思う。こういう部分にもとても共感できた。以後 <http://www.sendaiphill.jp/news/report.html> 掲げられているような多様な復興コンサートを展開。アエルでの昼休みコンサートにはほぼ毎日足を運んだ。

この演奏を、震災を乗り越えようと日々奮闘している大学、病院、職員、患者さん、皆様に是非楽しんでもらいたいと思って、病院長に相談したところすぐに手配していただいて、5月14日(土)に、大学病院旧外来棟1階待合ホールで、管弦楽九重奏の復興コンサートが実現した。病院長、事務、看護部、教室員会、その他多くの方々にこの場を借りてお礼申し上げる。演奏を聴いていて、音楽の力を直接感じるとともに、団員の方から、『こうしてコンサートをすることは、聴衆の方を励ますと同時に演奏する私たちが勇気とパワーをもたらしているんです』という言葉に胸が熱くなった。

主な資料

震災による学生の被災状況

震災による学生の被災状況等

別添

○ 外国人留学生

所属	状況	①怪我等の状況				②震災前の住居		③震災前の住居の被災状況			④現在の住居等			⑤授業開始後の住居			⑥通学見込み			
		無傷	軽傷	重症	その他 (行方不明、死亡等)	自宅	自宅外 (学寮、U H、アパ ート、下宿)	全壊	一部損壊	被災なし	震災前と同じ	実家、親 戚、友人、 知人宅	避難所	震災前と同じ	実家、親 戚、友人、 知人宅	避難所	転居	通学可能	交通機関 が復旧す れば可能	通学は困 難、できな い
医学部・医学系研究科		82				8	53		14	43	28	32		49	7		1	49		8

※ 短期滞在の学生は除くことから、学籍管理を行っている学生のみを調査対象とします。

別添

震災による学生の被災状況等

○ 日本人学生

所属	状況	①怪我等の状況				②震災前の住居		③震災前の住居の被災状況			④現在の住居等			⑤授業開始後の住居			⑥通学見込み				
		無傷	軽傷	重症	その他 (行方不明、死亡等)	自宅	自宅外 (学寮、U H、アパ ート、下宿)	全壊	一部損壊	被災なし	震災前と同じ	実家、親 戚、友人、 知人宅	避難所	震災前と同じ	実家、親 戚、友人、 知人宅	避難所	転居	通学可能	交通機関 が復旧す れば可能	通学は困 難、できな い	
医学部・医学系研究科		1,997				455	1,087	6	91	1,151	698	640	2	1,208	10		12	1,177	52	9	
計																					9

※ 短期滞在の学生は除くことから、学籍管理を行っている学生のみを調査対象とします。

平成22年度 医学部医学科3年次基礎医学修練発表会

日時：平成23年3月10日(木)、3月11日(金)
 場所：臨床大講堂(口演発表)、臨床中講堂(ポスター発表)

1. タイムテーブル・口演発表者一覧
 3月10日(木)

時間	No.	学術番号	氏名	分野	タイトル	座長		
9:00-9:15	閉会式							
9:15-10:45	1	ASMB1029	西條直也	生体システム生理学	非線形光学による次世代脳計測の科学的研究	藤原・幸		
	2	ASMB1050	豊崎昌弘	生体システム生理学	迷経路課題中における並列多重の準備に関わる前運動前野のneuron活動			
	3	ASMB1001	相川正孝	マイクロロンドン後医学 (マイクロロンドン中ゼン)	第一世代ヒトスミタン重 α -chordamitinemiaがもたらす自動車運転への影響-pET1による検討			
	4	ASMB1087	早坂一希	公衆衛生学	発育遅延と要介護、死亡の発生に関する前向きコホート研究			
	5	ASMB1043	渋谷悠馬	神経細胞生物学 (生体科学部専攻)	皮膚への光刺激で感覚入力が増える？ ~光作動性イオンチャンネルchannelrhodopsin-			
	ASMB1034	坂々木直真	分子薬理学	GPCRカルシウムセンサーと細胞内タンパク質の相互作用				
10:45-11:00	6	ASMB1042	芝期	分子薬理学				
	ASMB1089	平出桜						
11:00-12:30	休憩(15分)							
	7	ASMB1010	大杉貴也	機能薬理学	The role of histamine receptor H3 in MING cells	藤原・幸		
	8	ASMB1091	山崎寛也	機能薬理学	アストロサイトにおけるヒスタミン受容体H3及びH1の機能の解明			
	9	ASMB1081	松本隆太郎	機能薬理学	網膜の生理作用			
	10	ASMB1093	山下尚子	機能薬理学	タウメーシングによるアルツハイマー病診断			
	11	ASMB1092	山崎龍一	脳機能開発	社会的認知的評価軸による前頭面の神経基盤の解明			
	12	ASMB1057	寺尾千秋	脳機能開発	感情が音覚記憶に及ぼす影響とその神経基盤			
	12:30-13:30	休憩(60分)						
		13	ASMB1062	中田智明	細胞組織学		神経系上気細胞特異的新規cGMPシグナル伝達体の抗原決定、その機能解析	
		14	ASMB1070	平賀裕章	細胞組織学		加齢系細胞に存在する多能性幹細胞(Muse細胞)を効率よく培養する方法の研究	
		15	ASMB1026	近藤暁	医療薬理学		医学生免疫系細胞の免疫系細胞トランスクリプター・シグナル伝達への提案	
		16	ASMB1045	清水史	免疫遺伝子制御 (生体科学部専攻)		SMAP2の精子細胞における局在の検討	
17		ASMB1041	重枝太郎	生物学	HaloTagシステムを用いたBach2直接標的遺伝子スクリーニング系の樹立			
13:30-15:00	18	ASMB1086	森野香子	生物化学	S-アデニルメチルトランスフェラーゼの細胞内局在とその挙動			
	休憩(15分)							
15:00-16:15	ASMB1009	移村峻佑	法医学	法医学	「予断せぬ死、その死因は…」 「冤罪・自殺からの転嫁」 「取りこぼしの痕跡」その正体は…」			
	ASMB1037	佐藤利紀						
	ASMB1051	高橋和博						
	ASMB1077	舟橋優太郎						
	ASMB1080	前田啓造						
	ASMB1035	佐藤公一						
15:15-16:45	ASMB1055	田中裕	病態神経学	Protein Misfolding Cyclic Amplification (PMCA)法を用いたヒトプリオン増幅の試み	早坂・柳川			
	ASMB1064	中村貴樹	病態神経学	Protein Misfolding Cyclic Amplification (PMCA)法によるプリオン不活性化法の比較				
	ASMB1065	榎本真文	ゲノム生物学	Transgenic mouseを用いた突然変異の解析と、TIO2の抗腫瘍作用の研究				
	ASMB1068	原田佳奈	細胞組織学	臨床的放線線形細胞の基礎的研究				
			細胞増殖抑制	がん遺伝子FRASの真常活性化によるFAS遺伝子領域の転写抑制機構の解析				

3月11日(金)

時間	No.	学術番号	氏名	分野	タイトル	座長
9:00-10:30	25	ASMB1063	中野智太	分子生物学	腸がんにおけるGemcitabine耐性獲得機構の解明	佐藤(公)・渋谷
	26	ASMB1072	平沼和希子	分子生物学	Generation of iPSCs from SCA10 patient fibroblasts	
	27	ASMB1049	鈴木大輔	遺伝子導入	神経細胞伸長阻害因子Nogelによる細胞傷害性T細胞の制御の可能性に関する研究	
	ASMB1061	中田武史	運動学	サッカーのインステップキックにおける左右の差		
	ASMB1074	深野賢太郎				
	ASMB1084	宮崎雅人				
10:30-10:45	29	ASMB1047	庄西裕美子	神経化学	ハーキンソン病における記憶障害	
	30	ASMB1090	山口祐樹	生体防御学	樹状細胞の新たなサブセットとその性質	
	休憩(15分)					
	31	ASMB1005	池田喬司	血液生理学	Relation with GATA and Heparidin ~慢性炎症による重篤の治療へ~	
10:45-12:15	32	ASMB1020	河竹祐貴	微生物学	タミフルと熱帯インフルエンザウイルス増殖に及ぼす影響	佐藤(公)・渋谷
	33	ASMB1099	吉田雅晴	微生物学	フィロビンにおける日本脳炎ウイルスの遺伝学的解析	
	34	ASMB1026	大谷祐介	微生物学	フィロビンにおける日本脳炎ウイルスの遺伝学的解析	
	35	ASMB1001	青木健嗣	微生物学	フィロビンにおける日本脳炎ウイルスの遺伝学的解析	
	36	ASMB1097	横川裕大	微生物学	フィロビンにおける成人重症肺炎患者からの呼吸器感染ウイルスの組織的検出	
	36	ASMB1033	櫻田亮子	微生物学	フィロビンにおける成人重症肺炎患者からの呼吸器感染ウイルスの組織的検出	
12:15-13:15	休憩(60分)					
	37	ASMB1003	秋山真澄	病態神経学	敗血症とその症例からみる考察	佐藤(公)・渋谷
	ASMB1015	大竹征司				
	ASMB1062	竹内豊夫				
	ASMB1060	中島康介				
	ASMB1028	後藤和香子				
ASMB1039	佐野倫子					
13:15-14:00	38	ASMB1028	後藤和香子	病態神経学	肺扁平上皮癌の鑑別における免疫組織化学の問題点	
	38	ASMB1039	佐野倫子	病態神経学	肺扁平上皮癌の鑑別における免疫組織化学の問題点	
14:00-14:15	39	ASMB1058	富田真善	発生発達神経科学	遺伝子発現調節因子の発育が空間作業記憶と成体における神経新生に与える影響	
	休憩(15分)					
14:15-14:30	フリー時間					
	ポスター前半					
14:30-15:00	ポスター後半					
	ポスター後半					
15:00-15:30	休憩(30分)					
	表彰式・閉会式					

注意事項

発表時間は進行によって前後することがあります。

震災後の学生状況把握に向けたアンケート

本アンケートは以下の2点を目的として実施します。これに同意した学生諸君に記入をお願いします。但し、同意できなかった場合でも体調の異常や、その他震災に関連する問題などが出た場合は、厚生委員会、教務、医学教育推進センターなどに遠慮なく相談して下さい。また、「回答したくない」部分は無回答で結構です。

1. 東日本大震災及びこれに関連した事項によって、学生諸君に身体・精神的・経済的に何らかの問題が生じていないか、またはこれから生じ得ないかを早期に発見し、希望者には（設問11.参照）必要に応じてこれに対応する、または諸君に対応のための情報を提供する。

2. この様な震災が、学生諸君に今後どの様な影響を与えるのかを把握するための基礎資料として用い、今後、同様の災害が起こった場合の望ましい対応策を考える資料とする*。

*公開資料・学会発表等に用いる場合、情報に関する匿名性は必ず守ります。

・上記の目的を理解し、

a. アンケートの記入に同意します。 b. アンケートの記入に同意しません。

.....

・以下の設問には、上記において a. を選択した場合のみに記入して下さい。

学年：_____年、学籍番号：_____、名前：_____

1) 東日本大震災を受けた場所について記入して下さい。

a. 本学の講義棟 b. 大学病院 c. 地域の病院（場所：_____） d. 自宅
e. 郷里に戻っていた（県名：_____） f. その他（具体的に：_____）

2) 上記において、被災時の状況を記入して下さい。（複数選択可）

a. 建物が半壊以上であった b. 家屋内の備品・家具のみが被災 c. 自分に外傷などの人的な被災があった。（具体的に：_____）
e. 自分以外に人的被災があった（具体的に：_____）
d. ほとんど被災は無かった。 e. その他（具体的に：_____）

3) 家族や自分に近い方の被災状況について。（複数選択可）

a. 人的な被災があった（被災を受けた方は：_____、
どの様な被災か：_____）
b. 家屋等に被災があった（具体的に：_____）
c. 家計を支える手段に障害が生じた（具体的に：_____）
d. 被災は無かった。

4) 被災後から今日までの生活について記入して下さい。

a. ほとんど家族と一緒にいた（県名：_____） b. ほとんど一人で過ごした
c. ほとんど友人と一緒にいた d. その他（具体的に：_____）

5) 被災から、今日までに今回の震災に関するボランティア活動に参加しましたか。

a. 参加した b. 参加しなかった

注) ボランティアに参加できなくても、その事で諸君に不利益を与える事はありません。

・上記の設問で a. と答えた方に尋ねます。

6) ボランティアを行った場所について答えて下さい。

a. 津波の被災地（岩手、宮城、福島沿岸等） b. 大学病院 c. 津波被災地の医療機関
d. 津波被災地だが医療機関以外（具体的に

に：_____）

e. その他（具体的に

に：_____）

7) ボランティアの内容に関して答えて下さい。

a. 瓦礫の除去など b. 避難所・避難場所の運営（衣食住の補助など）
c. 救護物資の仕分け・配布など d. 医療補助 e. その他（具体的に：_____）

8) ボランティアに参加した期間について答えて下さい。

a. 数日以内 b. 1週間前後 c. 2週間前後 d. これ以上

・以下は全員への質問です。「回答したくない」部分は無回答で結構です。

9) 現在の体調（その1）について答えて下さい。

a. 頭痛、腹痛、吐き気、下痢、便秘、めまい等の症状が持続的または時々ある
（有する症状に○、他の症状：_____）
b. 特に異常は感じていない

10) 現在の体調（その2）について答えて下さい。（複数回答可）

a. 震災に関連して、思い出したくない記憶が時々出てくる、悪夢を見る
b. 急に不安や恐怖を感じる事がある
c. 震災後に特定の所に行けなくなった
d. 震災時の体験で思い出せない事、考えるのを避けている事などがある
e. 不眠が続いている、少しの物音などすぐに覚醒する
f. 自分を責めるような考えが浮かぶ（自分は何もできない等）
g. 否定的な考え方が増えた（誰も私を助けられない、何をしても意味が無い等）
h. 特に（上記の様な）異常は感じていない

震災後の学生状況把握に向けたアンケートについて
Questionnaire for students to understand the situation after the The Great East Japan Earthquake

11) 体調や経済的事情などで(その他でも結構です)、何らかの相談を希望しますか。

- a. 相談を希望する b. 既に相談している c. 希望しない

12) 現在困っている事等があれば、自由記載欄に記載して下さい。

[自由記入欄]

*記入したアンケートは、綴じられている5ページまでを教務係に提出して下さい。

* Please fill and enclose pages 1 through 5 in an envelope and post in the box at the Student Affairs Office (Kyoumushitsu) only when you agree the purpose of this questionnaire.

*アンケート用紙は EAST にてもダウンロードが可能です。

* The questionnaire can be downloaded through EAST, the portal system of our medical school.

*アンケートの提出後に、体調の異常などが生じた場合にも、学生厚生委員会、教務、医学教育推進センター、学生なんでも相談室、学生相談所、相談しやすい窓口や先生などに気軽に相談して下さい。

* After submitting the questionnaire, even if there is such a normal condition, You can ask for consultation at any time to the Student Welfare Committee, Student Affairs Office, Office of Medical Education, counseling room on Seiryō and Kawachi Campus, teachers and office you can visit with ease.

*アンケートに関する質問があれば、メール (meduc:jimu@bureau.tohoku.ac.jp) で気軽に問い合わせして下さい。

* If you have any questions about this survey, please feel free to ask us. E-mail address is as follows: meduc:jimu@bureau.tohoku.ac.jp

学生厚生委員会 委員長 堀井 明
副委員長 斉藤 秀光
医学教育推進センター 金塚 完

Akira Horii, MD, PhD (Chair, Student Health and Welfare Committee)

Hidemitsu Saito, MD, PhD (Vice Chair, Student Health and Welfare Committee)

Hiroshi Kanatsuka, MD, PhD (Office of Medical Education)



学生なんでも相談室



【対象者】 東北大学医学部・医学系研究科の学生とその家族

【開設日】 祝祭日及び年末年始を除く毎週水曜日 11時～15時（要予約）

【申込み】 予約は電話、電子メールを原則とする。相談室開室の当日に直接来所も可。（当日、空枠が無い場合もあります。）

Tel : 022-717-8595（受付時間 9:00～17:00〔土日祝祭日及び年末年始を除く〕）

E-mail : soudan@med.tohoku.ac.jp
（受付時間 9:00～17:00〔土日祝祭日及び年末年始を除く〕）

【開設場所】 星陵会館2階保健室

【相談員】 臨床心理士のカウンセラー

【相談時間】 原則として1回50分

【注意事項】・ 電話、電子メールでの相談は一切行いません。

・ 電子メールでの申込みは、どのアドレスから発信しても結構です。また、件名には「学生相談」と記入してください。

・ 電子メールでの申込みについて、すぐに返事を差し上げられないことがあります。

・ やむを得ない事情で面接予約を変更したい場合、電話、電子メール、直接来所のいずれかの方法でその旨をお伝えください。

・ 初めの方は、予約時間の10分前に星陵会館2階第2集會室で、相談申込票を記入するとともに、相談室利用上の注意事項を確認してください。



医学部・医学系研究科 学生厚生委員会



About Opening a Counseling Room for Students



【Object Person】 Students in Tohoku University School of Medicine, both undergraduate and graduate, and their family members.

【Opening hours】 Every Wednesday from 11:00 A.M. to 3:00 P.M. except holidays and the year-end and New Year holidays. (Appointment necessary)

【How to apply】 Please book by phone call or e-mail. You may directly come to the room without booking, but, if all opening hours were already booked, you may not be able to get consultation.

Tel : 022-717-8595 E-mail : soudan@med.tohoku.ac.jp

Opening hours: 9:00 a.m. to 5:00 p.m.

(We are closed in holidays, the year-end and New year holidays.)

【Venue】 Seiryō-Kaikan 2nd floor

【Counseling staff】 Clinical Psychologist

【Term】 50 minutes per 1 time

*Note

- Counseling by phone call or e-mail is not applicable.
- You can use your own e-mail address to make a reservation but please put "Counseling for students" on a subject line.
- It will take a couple of working days to reply your e-mail.
- Please contact us by phone, e-mail, or coming to the room directly in case you need to change your reservation.
- Please visit counseling room 10 minutes before the appointment time for the first time and fill forms.

November 1st, 2009

Tohoku University School of Medicine,
Student Health and Welfare Committee





- 大学概要
- 学部・大学院・研究所
- 教育・学生支援
- 国際交流
- 研究・産学連携
- 情報公開・広報
- 入試情報

- 中文 | 日本語 | English | 日本語
- お問い合わせ
- アクセスマップ
- サイトマップ



- About Tohoku University
- Facilities, Schools and Institutes
- Campus Life
- International Exchange
- Research and Cooperation
- Discourse and Public Information
- Access
- Sitemap

- Chinese | Korean | English | Japanese
- Search
- Inquiry
- Access
- Discourse and Public Information
- Entrance Exam Information

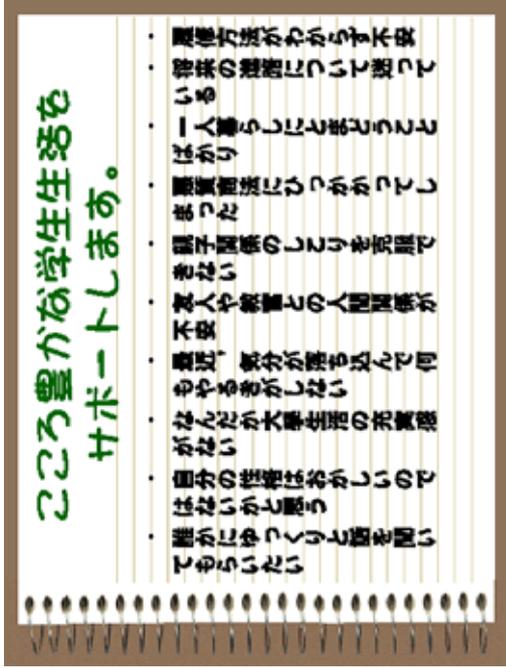
ホーム > 教育・学生支援 > 学生生活 > 学生相談所

- 教育・学生支援
- インフォメーション
- 教養
- 学生生活
 - 学生生活案内
 - 学生生活Q&A
 - 学生生活情報
 - 災害・事故
 - 卒業・就職
 - 卒業・学位関係
- 課外活動
- 学生会・サークル
- 課外活動施設・用具の貸出
- 各種行事・イベント
- 広報誌「学生会」
- 研修等施設
- 山形県セミナーセンター
- 厚生施設
- 厚生施設
- 入学料・授業料/奨学金
- 授業料等納付額・方法
- 授業料等免除
- 奨学金
- 学生教育研究災害備蓄保険 (学研災)
- 学生教育研究災害備蓄保険(学研災)
- ユニバーシティハウス・学業
- ユニバーシティハウス
- 学業
- 健康管理・相談窓口
- 保健管理センター

学生相談所

E-mail: [E-mail: hakusobureau@tohoku.ac.jp](mailto:E-mail:hakusobureau@tohoku.ac.jp) (受付のみ)
 URL: <http://www.uacc.hok.ac.jp/index.html>

さまざまな問題にぶつかって悩んだり不安になったとき、どこかへ癒やされたいとき、
 そんなとき、気軽に相談にいらしてください。(詳細は学生相談所ホームページをご覧ください)



その他、どんなことでもかまいません。専門のスタッフ(臨床心理士)が相談にのります。
 必要に応じて他の窓口やサービス機関、専門家の方を紹介することもできます。
 相談内容についての秘密は厳重に守られますので安心して相談してください。
 学生相談所に直接おいでくださるか、あらかじめ電話で相談時間を予約することができます。

〒980-8576 仙台市青葉区川内41
 場所: 川内北キャンパス 保健管理センター1階
 相談申込: 学生相談所受付 022-795-7833
 相談時間: 月～金 午前9時30分～午後5時 (祝日および年末年始は休みです。)



- About Tohoku University
- Facilities, Schools and Institutes
- Campus Life
- International Exchange
- Research and Cooperation
- Discourse and Public Information
- Access
- Sitemap

- Chinese | Korean | English | Japanese
- Search
- Inquiry
- Access
- Discourse and Public Information
- Entrance Exam Information

HOME > Campus Life > Student Life > University Counseling Center

- Campus Life
- Information
- Education
- Student Life
 - Guide for Student Life
 - For Students (Japanese)
 - Student Life (Japanese)
 - Extracurricular activity
 - Gakyo-kai and Clubs
 - Facilities for Extracurricular Activity
 - Cultural Club
 - Athletic Club
 - Facility for Seminars and work shops
 - Kawatani Seminar Center (Japanese)
 - Entrance fee, tuition fees/Scholarship
 - Tuition and other Fees
 - The application for entrance fee/tuition waiver, etc.
 - Scholarship(Japanese)
 - University houses, college houses
 - University house, Dormitories
 - College houses
 - Healthcare and Counseling office
 - Health Administration Center
 - University Counseling Center
 - Harassment Counseling
 - Announcement from Student Life Association
 - Education council Letter

University Counseling Center

E-mail: gakusobureau@tohoku.ac.jp (Replace * to @)
 URL: <http://www.uacc.hok.ac.jp/index.html>

When you feel concerned, worried or feel depressed when encountering various issues, feel free to come and consult with us (For detailed information, refer to the homepage of the University Counseling Center).

For concerns including but not limited to those listed above, consult with our professional staff (clinical psychologist).

Depending on the situation, we can introduce other administrative staff, services, and organizations as well as professional personnel.

Be aware that the contents of the consultation are strictly protected and confidential, so feel safe to come to consult with us.

You can come to the Counseling Center or make an appointment in advance by phone.

41 Kawachi, Aoba-ku, Sendai 980-8576

Place: Kawachi-Kita Campus Next to the Health Administration Center

Phone: 022-795-7833

Opening Hours: Monday to Friday 09:30-17:00 (closed on holidays and year-end and New Year holidays)

震災後の学生状況把握に向けたアンケート

Questionnaire for students to understand the situation after the earthquake

本アンケートは以下の2点を目的として実施します。これに同意した学生諸君に記入をお願いします。但し、同意できなかった場合でも体調の異常や、その他震災に関連する問題などが出た場合は、厚生委員会、教務、医学教育推進センターなどに遠慮なく相談して下さい。また、**“回答したくない”部分は無回答で結構です。**

This questionnaire is to understand the situation of students after the earthquake on March 11. Please fill and enclose the form in an envelope and post it in the box at the Student Affairs Office (Kyoumushitsu), only when you understand and agree the purpose of this questionnaire. Even though you do not agree to answer the questionnaire, do not hesitate to tell and/or ask us for help whenever you have any physical or mental problems. We are willing to help you. If there are any questions that you do not want to answer, please leave them as blanks. Purposes of this questionnaire are as follows:

1. 東日本大震災及びこれに関連した事項によって、学生諸君に身体・精神的・経済的に何らかの問題が生じていないか、またはこれから生じ得ないかを早期に発見し、希望者には（設問11. 参照）必要に応じてこれに対応する、または諸君に対応のための情報を提供する。

1. Have Great East Japan Earthquake and related matters influenced on students any of physical, mental or financial problems? If so, we wish to find them earlier and help those who wish our help (see also Question 11) by treatment and/or providing relevant information.

2. この様な震災が、学生諸君に今後どのような影響を与えるのかを把握するための基礎資料として用い、今後、同様の災害が起こった場合の望ましい対応策を考える資料とする*。

2. The collected information with this questionnaire will be used to understand the future effects on students, and to utilize as the valuable information for the similar disaster in the future. *

*公開資料・学会発表等に用いる場合、情報に関する匿名性は必ず守ります。

* In case of presentations at the conference and/or publication, we will keep the confidentiality of the information.

・上記の目的を理解し、I understand the above mentioned purpose, and

- a. アンケートの記入に同意します。 b. アンケートの記入に同意しません。
a. I agree to fill out the questionnaire. b. I do not agree to fill out the questionnaire.

以下設問には、上記において a. を選択した場合のみに記入して下さい。

Please fill in the following questions only if you chose "a."

学年：_____年，学籍番号：_____，名前：_____

Grade: _____ Student ID number: _____ Name: _____

1) 東日本大震災を受けた場所について記入して下さい。

- a. 本学の講義棟 b. 大学の病院 c. 地域の病院 (場所: _____) d. 自宅
e. 郷里に戻っていた (県名: _____) f. その他 (具体的に: _____)

1) Where were you at the moment of Great East-Japan Earthquake on March 11.

- a. The University Lecture Building b. University Hospital
c. Local hospitals (Location: _____) d: Your home
e: Hometown (Country name: _____) f. Other (specify: _____)

2) 上記において、被災時の状況を記入して下さい。(複数選択可)

- a. 建物が半壊以上であった b. 家屋内の備品・家具のみが被災 c. 自分に外傷などの人的な被災があった。(具体的に: _____)
d. 自分以外に人的被災があった (具体的に: _____)
e. ほとんど被災は無かった。 f. その他 (具体的に: _____)

2) The situation at the time of disaster. (Multiple choice)

a. The building was totally or partially destroyed

b. Only the furniture and/or equipments were destroyed

c. Physically injured (yourself). (specify: _____)

d. Someone around you was injured. (specify: _____)

e. Almost no damage. f. Other (specify: _____)

3) 家族や自分に近い方の被災状況について。(複数選択可)

a. 人的な被災があった (被災を受けた方は: _____
どの様な被災か: _____)

b. 家屋等に被災があった (具体的に: _____)

c. 家計を支える手段に障害が生じた (具体的に: _____)

d. 被災は無かった。

3) Situation of your family, relatives, close friends and acquaintances. (Multiple choice)

a. Someone was a physically injured. (relationship(s): _____)

Kind of damage(s): _____

b. Damage to house, etc. (specify: _____)

c. Financial problems. (specify: _____)

d. No damage.

4) 被災後から今までの生活について記入して下さい。

a. ほとんど家族と一緒にいた (県名: _____) b. ほとんど一人で過ごした

c. ほとんど友人と一緒にいた d. その他 (具体的に: _____)

- 4) Where were you after the earthquake?
 a. I was with my family for the most of time (Country name: _____)
 b. I was alone for the most of time
 c. I was with friends for the most of time
 d. Other (specify: _____)

- 5) 被災から、今日までに今回の震災に関するボランティア活動に参加しましたか。
 a. 参加した b. 参加しなかった

注) ボランティアに参加できなくても、その事で諸君に不利益を与える事はありません。

- 5) From the disaster, did you participate in volunteer activities?
 a. Yes b. No

Note) No disadvantage to you irrespective of your answer above.

・上記の設問でa.と答えた方に尋ねます。

* Only to those who selected "a" in above question.

- 6) ボランティアを行った場所について答えて下さい。
 a. 津波の被災地 (岩手, 宮城, 福島の沿岸等) b. 大学病院
 c. 津波被災地の医療機関 d. 津波被災地だが医療機関以外 (具体的に: _____)
 e. その他 (具体的に: _____)

6) Please answer where you went as a volunteer?

- a. Tsunami affected areas (Iwate, Miyagi, Fukushima) b. University Hospital
 c. Hospitals at tsunami affected areas. d. Places other than hospitals at tsunami affected areas (specify: _____)
 e. Other (specify: _____)

7) ボランティアの内容に関して答えて下さい。

- a. 瓦礫の除去など b. 避難所・避難場所の運営 (衣食住の補助など)
 c. 救援物資の仕分け・配布など d. 医療補助 e. その他 (具体的に: _____)

7) What did you do as a volunteer?.

- a. I mainly removed debris. b. I helped at evacuation shelters (mainly life support or so). c. I mainly sorted and/or distributed relief supplies. d. I helped the medical supporting team. e. Other (specify: _____)

- 8) ボランティアに参加した期間について答えて下さい。
 a. 数日以内 b. 1週間前後 c. 2週間前後 d. これ以上
 8) Please answer the period as a volunteer.
 a. Within a few days b. About one week c. About 2 weeks d. More than 2 weeks

・以下は全員への質問です。「回答したくない」部分は無回答で結構です。

The followings are questions to everyone. Please leave blank if you do not want to answer.

- 9) 現在の体調 (その1) について答えて下さい。
 a. 頭痛, 腹痛, 吐き気, 下痢, 便秘, めまい等の症状が持続的または時々ある (有する症状に○, 他の症状: _____)
 b. 特に異常は感じていない
 9) Your current conditions (part 1).
 a. I have sometimes or persistently headache, abdominal pain, nausea, diarrhea, constipation or dizziness (circle your symptoms)? If you have other symptoms, specify here: _____
 b. No abnormalities.

- 10) 現在の体調 (その2) について答えて下さい。(複数回答可)
 a. 震災に関連して, 思い出したくない記憶が時々出てくる, 悪夢を見る
 b. 急に不安や恐怖を覚える事がある
 c. 震災後に特定の所に行けなくなった
 d. 震災時の体験で思い出せない事, 考えるのを避けている事などがある
 e. 不眠が続いている, 少しの物音などすぐに覚醒する
 f. 自分を責めるような考えが浮かぶ (自分は何もできない等)
 g. 否定的な考え方が増えた (誰も私を助けられない, 何をしても意味が無い等)
 h. 特に (上記の様な) 異常は感じていない

- 10) Your current conditions (part 2, multiple answers)
 a. I experience flashback(s) related to the disaster and/or nightmares
 b. I sometimes feel anxiety and fear suddenly/
 c. There is a particular place where I cannot go after the quake.
 d. There is something that I can not remember or something I decline to consider.
 e. Insomnia continues, and/or small sound woke me up.
 f. Ideas float like blaming myself (such as "I cannot do anything")
 g. Negative thinking increased. (such as "I cannot help anyone." "Everything I do has no meaning.")
 h. No particular abnormalities.

- 11) 体調や経済的事情などで(その他でも結構です)、何らかの相談を希望しますか。
 a. 相談を希望する b. 既に相談している c. 希望しない
- 11) Do you wish any consultation on your mental, physical, and/or financial (may be others) issues?
 a. Yes. b. I already visited consultation. c. No.
- 12) 現在困っている事等があれば、自由記載欄に記載して下さい。
 12) If you have any problems on concerns, please feel free to describe below.

[自由記入欄 Free entry column]

震災後の学生状況把握に向けたアンケートについて

- * 記入したアンケートは、綴じられている3ページまでを教務係に提出して下さい。
- * アンケート用紙はEASTにてダウンロードが可能です。
- * アンケートの提出後に、体調の異常などが生じた場合にも、学生厚生委員会、教務、医学教育推進センター、学生なんでも相談室、学生相談所、相談しやすい窓口や先生などに気軽に相談して下さい。
- * アンケートに関する質問があれば、医学教育推進センター (717-8222)、あるいは教務係に気軽に問い合わせして下さい。

学生厚生委員会 委員長 堀井 明
 副委員長 斉藤 秀光
 医学教育推進センター 金塚 完

学生なんでも相談室



学生なんでも相談室を利用する皆さんへ

医学部・医学系研究科「学生なんでも相談室」へようこそ。以下に、皆さんが利用するにあたって、どのような手続きやルールがあるのかについての説明があります。もし、疑問や心配があれば、どのようなことでも構いませんので、気軽なことでなく尋ねてください。

1. カービスの利用者
学生なんでも相談室を利用することができるのは、東北大学医学部・医学系研究科の学生とその家族です。

2. 相談カービス
学生なんでも相談室では、専門の相談員（臨床心理士のカウンセラー）が、皆さんの相談内容に応じて、カウンセリング（皆さんの考えや気持ちの整理や問題解決を構築することを支援する）やコンサルティング（皆さんの周りの人が抱えている問題の対処方法について助言する）等の専門的なサービスを提供します。また、相談内容によっては、東北大学「学生相談窓口」や、より適切な機関や窓口、教員等を紹介することもありますが、カウンセリングやコンサルティングによって、どんな悩みや問題も解決するというものではありませんが、問題解決のためのひとつのきっかけとなるように支援します。なお、相談日は祝祭日及びびん年末年始を除く毎週水曜日11時～15時とし、相談時間は原則として1回50分です。

3. 相談内容の守秘について
相談内容についての厳密な守秘に守られます。ただし、学生なんでも相談室の相談員は、東北大学「学生相談窓口」と連携を図っており、学生相談室の相談員とで情報の共有を行うことがあります。さらに、より適切な助言を提供するため、細かな個人情報や状況を伏せた形で他の専門家に相談の経過を報告し、コメントを受けることもあります。

また、以下の場合、例外的に本人の同意が得られなくとも関係者に情報を開示することがあります。

- 切迫した自傷の危険がある場合
- 他者を傷つけるおそれがある場合

4. 相談記録
学生なんでも相談室では、相談記録をとり、学番号や連絡先等の個人情報とあわせて厳重に保管され、相談員以外では相談記録にアクセスしません。この情報は、学生なんでも相談室がより適切に皆さんの状況を理解して援助を提供するためご利用いただけるものであり、学生相談の記録が成績等の他の目的に用いられることはありません。なお、相談記録は原則として卒業するまで保管されます。

5. 予約と予約の変更について
相談の予約は直接来所、電話、電子メールのいずれかとなります。電話（022-717-8595）は原則として平日の9時～17時です。受付時間内でも、担当者が在室でないこともあります。その場合は、再度電話するか、電子メール(soudan@med.tohoku.ac.jp)をお送りください。メールはどのおアドレスから発信しても結構です。すぐに返事を差し上げられないことがありますので、ご承知置きください。
やむを得ない事情で面接予約を変更したい場合、電話、電子メール、直接来所のいずれかの方法でその旨をお伝えください。また、予約した面接の当日に急に来所できなくなつた場合は、必ず電話してください。予約を再度取りたい場合、電話、電子メール、直接来所のいずれかの方法でご連絡ください。

6. 電子メールについて
電子メールはその性質上、厳密に十分確保できないため、学生なんでも相談室では電子メールを用いた相談を行っていません。

以上の1～6以外のことについても、学生なんでも相談室のホームページに関して疑問や心配があれば、お気軽にお尋ねください。

【対象者】 東北大学医学部・医学系研究科の学生とその家族

【開設日】 祝祭日及びびん年末年始を除く毎週水曜日11時～15時（要予約）

【申込み】 予約は電話、電子メールを原則とする。相談室開室の当日に直接来所も可。（当日、空枠が無い場合もあります。）

Tel : 022-717-8595（受付時間 9:00～17:00〔土日祝祭日及びびん年末年始を除く〕）
E-mail : soudan@med.tohoku.ac.jp
（受付時間 9:00～17:00〔土日祝祭日及びびん年末年始を除く〕）

【開設場所】 星陵会館2階保健室

【相談員】 臨床心理士のカウンセラー

【相談時間】 原則として1回50分

【注意事項】 電話、電子メールでの相談は一切行いません。
・ 電子メールでの申込みは、どのアドレスから発信しても結構です。また、件名には「学生相談」と記入してください。
・ 電子メールでの申込みについて、すぐに返事を差し上げられないことがあります。
・ やむを得ない事情で面接予約を変更したい場合、電話、電子メール、直接来所のいずれかの方法でその旨をお伝えください。
・ 初めの方は、予約時間の10分前に星陵会館2階第2集会所で、相談申込票を記入するとともに、相談室利用上の注意事項を確認してください。



医学部・医学系研究科 学生厚生委員会

・・・学生相談所から被災されたみなさまへ・・・ 震災後のところとからだの変化について

今回の東北地方太平洋沖大地震のような大災害に遭った後には、ところとからだにいろいろな変化が起こります。これは、**日常とはかけ離れた大きな出来事に対する正常な反応**です。災害後、約2～3週間は体調の変化がおこりやすい時期ですが、**多くの症状は、時間とともに自然に回復していきます。**

ここに起こりやすい変化

- ・ 怖い体験を何度も思い出す
- ・ 自分をとても無力なものに感じる
- ・ 怒りやいらいらを感じる
- ・ 助かったことを後ろめたく思う
- ・ 将来に希望が持てず、不安になる
- ・ 何事にも無関心、無感動になってしまふ

からだに起こりやすい変化

- ・ 疲れがとれない
- ・ 眠れない、悪夢をみる
- ・ 朝はやく目覚める
- ・ 集中力がなくなる
- ・ 吐き気、食欲不振、胃痛
- ・ 下痢、便秘、頭痛

対応は・・・

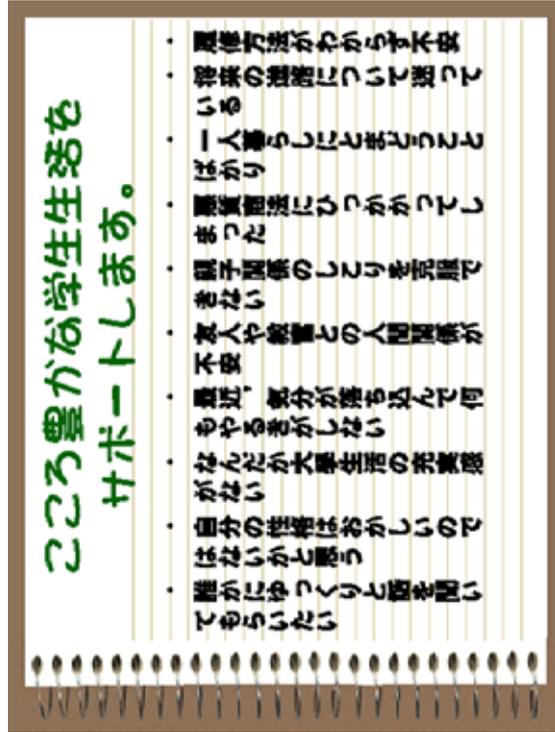
- 気持ちや体験をことばにすると落ち着きます。
- 睡眠、休息、食事、運動を大切にしましょう。
- リラックスできることをしてみよう（深呼吸、ストレッチ体操、気分が落ち着く音楽を聞く）。
- 不注意による事故や怪我を起こしやすいので、普段よりも気を付けましょう。
- 心身の苦痛が強すぎる、あるいは長すぎると感じた時は、学生相談所に相談してください。



学生相談所

E-mail: gakuso@bureau.tohoku.ac.jp (受付のみ)
URL: <http://www.ucc.he.tohoku.ac.jp/index.html>

さまざまな問題にぶつかって悩んだり不安になったとき、ところが疲れたと感じたとき、そんなとき気軽に相談にいらしてください。(詳細は学生相談所ホームページをご覧ください)



その他どんなことでもかまいません。専門のスタッフ[臨床心理士]が相談にのります。必要に応じて、他の窓口やサービス機関、専門家の方を紹介することもできます。相談内容についての秘密は厳重に守られますので安心して相談してください。学生相談所に直接おいでくださるか、あらかじめ電話で面談時間を予約することができます。

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41
場 所：川内北キャンパス 保健管理センター隣
相談申込：学生相談所受付 022-795-7833
相談時間：月～金 午前9時30分～午後5時(祝日および年末年始は休みです。)

東北大学学生相談所

電話：022-795-7833

メール：gakuso@bureau.tohoku.ac.jp

*資料作成にあたって、宮城県および岩手大学が作成した資料を参考にさせていただきました。

震災後の学生状況把握に向けた第2回アンケート

本アンケートは以下の2点を目的として実施します。これに同意した学生諸君に記入をお願いします。但し、同意できなかった場合でも体調の異常や、その他震災に関連する問題などが出た場合は、厚生委員会、教務、医学教育推進センターなどに遠慮なく相談して下さい。また、「回答したくない」部分は無回答で結構です。

1. 東日本大震災及びこれに関連した事項によって、学生諸君に身体・精神的・経済的に何らかの問題が生じていないか、またはこれから生じ得ないかを早期に発見し、希望者には(設問10参照)必要に応じてこれに対応する、または諸君に対応のための情報を提供する。

2. この様な震災が、学生諸君に今後どのような影響を与えるのかを把握するための基礎資料として用い、今後、同様の災害が起こった場合の望ましい対応策を考える資料とする*。

*公開資料・学会発表等に用いる場合、情報に関する匿名性は必ず守ります。

上記の目的を理解し、アンケートの記入に(a. 同意します。 b. 同意しません。)
 ・以下設問には、上記において a. を選択した場合のみ記入して下さい。

学年：_____年、学籍番号：_____、名前：_____

1) 東日本大震災を受けた場所について記入して下さい。
 a. 本学の講義棟 b. 大学病院 c. 地域の病院(場所：_____) d. 自宅
 e. 郷里に戻っていた(県名：_____) f. その他(具体的に：_____)

2) 上記において、被災時の状況を記入して下さい。(複数選択可)
 a. 建物が半壊以上であった b. 家屋内の備品・家具のみが被災 c. 自分に外傷などの人的な被災があった。(具体的に：_____)
 d. 自分以外に人的被災があった(具体的に：_____)
 e. ほとんど被災は無かった。 f. その他(具体的に：_____)

3) 家族や自分に近い方の被災状況について。(複数選択可)
 a. 人的な被災があった(被災を受けた方は：_____
 どの様な被災か：_____
 b. 家屋等に被災があった(具体的に：_____
 c. 家計を支える手段に障害が生じた(具体的に：_____
 d. 被災は無かった。

4) 上記2), 3) の被災状況について、その後の変化を記入して下さい。
 カッコ内記載例(2-a, 3-a)
 a. 問題はなくなかった(_____
 b. 軽減した(_____
 c. 変わらない(_____
 d. 強まっている(_____
 e. 新たに出現した(_____)

- 5) 今回の震災に関するボランティア活動に参加しましたか。
 a. 参加した b. 参加しなかった
- 6) 被災から現在までの体調(その1)について答えて下さい。
 a. 頭痛、腹痛、吐き気、下痢、便秘、めまい等の症状が持続的または時々ある(有する症状に○、他の症状：_____
 b. 特に異常は感じていない
- 7) 被災から現在までの体調(その2)について答えて下さい。(複数回答可)
 a. 震災に関連して、思い出したくない記憶が時々出てくる、悪夢を見る
 b. 急に不安や恐怖を感じる事がある
 c. 震災後に特定の所に行けなくなった
 d. 震災時の体験で思い出せない事、考えるのを避けている事などがある
 e. 不眠が続いている、少しの物音などですぐに覚醒する
 f. 自分を責めるような考えが浮かぶ(自分は何もできない等)
 g. 否定的な考え方が増えた(誰も私を助けられない、何をしていても意味が無い等)
 h. 特に(上記の様な)異常は感じていない
- 8) 上記の症状について、4月・5月と比較してどう変化していますか。
 カッコ内記載例(6-頭痛, 7-a)
 a. 症状はなくなかった(_____
 b. 軽減した(_____
 c. 変わらない(_____
 d. 強まっている(_____
 e. 新たに出現した(_____)

9) 体調や経済的事情などで(その他でも結構です)、何らかの相談を希望しますか。
 a. 相談を希望する b. 既に相談している c. 希望しない

震災後の学生状況把握に向けたアンケートについて

10) 現在困っている事等があれば、自由記載欄に記載して下さい。

[自由記入欄]

* 記入したアンケートは、綴じられている3ページまでを教務係に提出して下さい。

保健学科の学生は、保健学科総務係に提出しても結構です。

* アンケート用紙はEASTにてダウンロードが可能です。

* アンケートの提出後に、体調の異常などが生じた場合にも、学生厚生委員会、教務、医学教育推進センター、学生なんでも相談室、学生相談所、相談しやすい窓口や先生などに気軽に相談して下さい。

* アンケートに関する質問があれば、医学教育推進センター（717-8222）、あるいは教務係に気軽に問い合わせして下さい。

学生厚生委員会 委員長 堀井 明
副委員長 斉藤 秀光
医学教育推進センター 金塚 完

Questionnaire for students to understand the situation 4 months after the earthquake

This questionnaire is to understand the present situation of students after the earthquake on March 11. Please fill and enclose the form in an envelope and post it in the box at the Student Affairs Office (Kyoumushitsu), only when you understand and agree the purpose of this questionnaire. Even though you do not agree to answer the questionnaire, do not hesitate to tell and/or ask us for help whenever you have any physical, mental, and/or financial problems. We are willing to help you. If there are any questions that you do not want to answer, please leave them as blanks. Purposes of this questionnaire are as follows:

1. Have Great East Japan Earthquake and related matters influenced on students any of physical, mental and/or financial problems? If so, we wish to find them earlier and help those who wish our help (see also Question 10) by treatment and/or providing relevant information.
2. The collected information with this questionnaire will be used to understand the future effects on students, and to utilize as the valuable information for the similar disaster in the future. *

* In case of presentations at the conference and/or publication, we will keep the confidentiality of the information.

I understand the above mentioned purpose, and

- a. I agree to fill out the questionnaire. b. I do not agree to fill out the questionnaire.

Please fill in the following questions only if you chose "a."

Grade : _____ Student ID number : _____ Name : _____

1) Where were you at the moment of Great East Japan Earthquake on March 11.

- a. The University Lecture Building b. University Hospital
c. Local hospitals (Location: _____) d: Your home
e: Hometown (Country name: _____) f: Other (specify: _____)

2) The situation at the time of disaster. (Multiple choice)

- a. The building was totally or partially destroyed
b. Only the furniture and/or equipments were destroyed
c. Physically injured (yourself). (specify: _____)
d. Someone around you was injured. (specify: _____)
e. Almost no damage. f. Other (specify: _____)

3) Situation of your family, relatives, close friends and acquaintances. (Multiple choice)

- a. Someone was a physically injured. (relationship(s): _____)
Kind of damage(s): _____
b. Damage to house, etc. (specify: _____)
c. Financial problems. (specify: _____)
d. No damage.

4) How did the above-mentioned situation/problems in 2) and 3) change?

Select the appropriate brackets and fill as follows (2-a, 3-a)

- a. solved (_____)
b. relieving (_____)
c. no change (_____)
d. worsening (_____)
e. New problems appeared (_____)

- 5) From the disaster, did you participate in volunteer activities?
a. Yes b. No
- 6) Your physical conditions since the disaster to date (part 1).
a. I have sometimes or persistently headache, abdominal pain, nausea, diarrhea, constipation or dizziness (circle your symptoms)? If you have other symptoms, specify here: _____)
b. No abnormalities.
- 7) Your mental conditions since the disaster to date (part 2, multiple answers)
a. I experience flashback(s) related to the disaster and/or nightmares
b. I sometimes feel anxiety and fear suddenly/
c. There is a particular place where I cannot go after the quake.
d. There is something that I can not remember or something I decline to consider.
e. Insomnia continues, and/or small sound woke me up.
f. Ideas float like blaming myself (such as "I cannot do anything")
g. Negative thinking increased. (such as "I cannot help anyone." "Everything I do has no meaning.")
h. No particular abnormalities.
- 8) How did the above-mentioned symptoms/problems change since April/May?
Select the appropriate brackets and fill as follows (2-a, 3-a)
a. solved (_____)
b. relieving (_____)
c. no change (_____)
d. worsening (_____)
e. new problems appeared (_____)
- 9) Do you wish any consultation on your mental, physical, and/or financial (may be others) issues?
a. Yes. b. I already visited consultation. c. No.
- 10) If you have any problems on concerns, please feel free to describe below.
[Free entry column]

Questionnaire for students to understand the situation after the The Great East Japan Earthquake

- * Please fill and enclose pages 4 through 6 in an envelope and post in the box at the Student Affairs Office (Kyoumushitsu) only when you agree the purpose of this questionnaire.
- * The questionnaire can be downloaded through EAST, the portal system of our medical school.
- * After submitting the questionnaire, even if there is such abnormal condition, You can ask for consultation at any time to the Student Welfare Committee, Student Affairs Office, Office of Medical Education, counseling room on Seiryō and Kawauchi Campus, teachers and office you can visit with ease.

* If you have any questions about this survey, please feel free to ask us. E-mail address is as follows: meduc-jimu@bureau.tohoku.ac.jp

Akira Horii, MD, PhD (Chair, Student Health and Welfare Committee)
 Hidemitsu Saito, MD, PhD (Vice Chair, Student Health and Welfare Committee)
 Hiroshi Kanatsuka, MD, PhD (Office of Medical Education)

震災後の学生状況把握に向けた第3回アンケート

本アンケートは以下の2点を目的として実施します。これに同意した学生諸君に記入をお願いします。但し、同意できなかった場合でも体調の異常や、その他震災に関連する問題などが出た場合は、厚生委員会、教務、医学教育推進センターなどに遠慮なく相談して下さい。また、「回答したくない部分は無回答で結構です。」

1. 東日本大震災及びこれに関連した事項によって、学生諸君に身体・精神的・経済的に何らかの問題が生じていないか、またはこれから生じ得ないかを早期に発見し、希望者には（設問6.参照）必要に応じてこれに対応する、または諸君に対応のための情報を提供する。
2. この様な震災が、学生諸君に今後どの様な影響を与えるのかを把握するための基礎資料として用い、今後、同様の災害が起こった場合の望ましい対応策を考える資料とする*。

*公開資料・学会発表等に用いる場合、情報に関する匿名性は必ず守ります。

本アンケートは2011年4-5月と7月に2回実施し、被災学生の精神的支援や経済的支援に役立てることができました。今回、震災後1年を前にして、第3回目を実施します。

- ・上記の目的を理解し、アンケートの記入に(a. 同意します。 b. 同意しません。)

※本アンケートの記入例：
 ○を塗りつぶしてください。

良い例	悪い例
●	○

所属：○ 医学科 ○ 保健学科 ○ 大学院

学年：_____年，学籍番号：_____，名前：_____

- 1) 家族や自分に近い方への被災状況について。(複数選択可)
 - 1. 人間的被災があった ○ 2. 家庭等に被災があった ○ 3. 親戚が被災した ○ 4. 被災は無かった
- 2) 上記1)で、「被災は無かった」以外のいずれかを選択した場合、該当する被災状況について、その後の変化を記入して下さい。

カテゴリー記入例 (2, 3)

 - 問題はなくなつた (_____)
 - 軽減した (_____)
 - 変わらない (_____)
 - 強まっている (_____)
 - 新たに出現した (_____)
- 3) 被災から現在までの体調 (その1) について答えて下さい。

下記の症状が持続的または時々ある

 - a. 頭痛 ○ b. 腹痛 ○ c. 吐き気 ○ d. 下痢 ○ e. 便秘 ○ f. めまい ○ g. 不眠
 - h. その他の症状：(_____)
 - i. 特に異常は感じていない
- 4) 被災から現在までの体調 (その2) について答えて下さい。(複数回答可)
 - a. 震災に関連して、思い出したくない記憶が時々出てくる、悪夢を見る
 - b. 急に不安や恐怖を感じる事がある
 - c. 震災後に特定の所に行けなくなつた
 - d. 震災時の体験で思い出せない事、考えるのを避けている事などがある
 - e. 不眠が続いている、少しの物音などですぐに覚醒する
 - f. 自分を責めるような考えが浮かぶ (自分は何もできない等)
 - g. 否定的な考え方が増えた (誰も私を助けられない、何をしても意味が無い等)
 - h. その他 カッコ内記入例 (意欲がわかない、疲れがとれない、飲酒量が増えた)

○ i. 特に (上記の様な) 異常は感じていない

5) 上記3), 4) の症状について、以前と比較してどう変化していますか。

カッコ内記入例 (3-a, 4-a)

- 症状はなくなった ()
- 軽減した ()
- 変わらない ()
- 強まっている ()
- 新たに出現した ()

6) **体調や経済的事情などで(その他でも結構です)、何らかの相談を希望しますか。**

- 相談を希望する 既に相談している 相談を希望しない

7) 現在困っている事等があれば、下記の記載欄に記載して下さい。

・経済的な面で心配なこと

※震災青英奨学金等については現在検討中ですが、本アンケートの内容も参考にします。

・精神的な面で不安なこと

・その他自由記載欄

震災後の学生状況把握に向けたアンケートについて

* 記入したアンケートは、医学部・医学系研究科の教務室内にある提出箱に提出して下さい。

保健学科の学生は、保健学科総務係の提出箱に提出しても結構です。

* アンケート用紙は EAST でもダウンロードが可能です。

* アンケートの提出後に、体調の異常などが生じた場合にも、学生厚生委員会、教務、医学教育推進センター、学生なんでも相談室、学生相談所、相談しやすい窓口や先生などに気軽に相談して下さい。

* アンケートに関する質問があれば、医学教育推進センター (717-8508)、あるいは教務係に気軽に問い合わせして下さい。

学生厚生委員会 委員長 堀井 明
副委員長 斉藤 秀光
医学教育推進センター 金塚 完

*The English version of this questionnaire is available from pp. 4 to 6. Please use it if you prefer.

震災後の学生状況把握に向けた第3回アンケート

本アンケートは以下の2点を目的として実施します。これに同意した学生諸君に記入をお願いします。但し、同意できなかった場合でも体調の異常や、その他震災に関連する問題などが出た場合は、厚生委員会、教務、医学教育推進センターなどに遠慮なく相談して下さい。また、「回答したくない」部分は無回答で結構です。

1. 東日本大震災及びこれに関連した事項によって、学生諸君に身体・精神的・経済的に何らかの問題が生じていないか、またはこれから生じ得ないかを早期に発見し、希望者には（設問6. 参照）必要に応じてこれに対応する。または諸君に対応のための情報を提供する。

2. この様な震災が、学生諸君に今後どの様な影響を与えるのかを把握するための基礎資料として用い、今後、同様の災害が起こった場合の望ましい対応策を考える資料とする*。

*公開資料・学会発表等に用いる場合、情報は必ず守ります。

本アンケートは、2011年4~5月と7月に2回実施し、被災学生の精神的支援や経済的支援に役立てることができました。今回、震災後1年を前にして、第3回を実施します。

・上記の目的を理解し、アンケートの記入に（ a. 同意します。 b. 同意しません。）

※本アンケートの記入例：
 を塗りつぶして下さい。

良い例	悪い例
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

所属： 医学科 保健学科 大学院

学年： _____ 年、学籍番号： _____、名前： _____

1) 家族や自分に近い方の被災状況について。（複数選択可）

1. 人的な被災があった 2. 家屋等に被災があった 3. 親族が被災した 4. 被災は無かった

2) 上記1)で、「被災は無かった」以外のいずれかを選択した場合、該当する被災状況について、その後の変化を記入して下さい。

カッコン記入例 (2, 3)

- a. 問題はなくなりました (_____)
- b. 軽減した (_____)
- c. 変わらない (_____)
- d. 強まっている (_____)
- e. 新たに出現した (_____)

3) 被災から現在までの体調 (その1) について答えて下さい。

下記の症状が持続的または時々ある

- a. 頭痛 b. 腰痛 c. 吐き気 d. 下痢 e. 便秘 f. めまい g. 不眠
- h. その他の症状： (_____)
- i. 特に異常は感じていない

4) 被災から現在までの体調 (その2) について答えて下さい。（複数回答可）

- a. 震災に関連して、思い出したくない記憶が時々出てくる、悪夢を見る
- b. 急に不安や恐怖を感じる事がある
- c. 震災後に特定の所に行けなくなった
- d. 震災時の体験で思い出せない事、考えるのを避けている事などがある
- e. 不眠が続いている、少しの物音などですぐに覚醒する
- f. 自分を責めるような考えが浮かぶ (自分は何もできない等)
- g. 否定的な考えが増えた (誰も私を助けられない、何をしても意味が無い等)
- h. その他 カッコン記入例 (意欲がわかない、疲れがとれない、飲酒量が増えた)

i. 特に (上記の様な) 異常は感じていない

5) 上記3), 4) の症状について、以前と比較してどう変化していますか。

カッコン記入例 (3-a, 4-a)

- a. 症状はなくなりました (_____)
- b. 軽減した (_____)
- c. 変わらない (_____)
- d. 強まっている (_____)
- e. 新たに出現した (_____)

6) 体調や経済的事情などで(その他でも結構です)、何らかの相談を希望しますか。

a. 相談を希望する b. 既に相談している c. 相談を希望しない

7) 現在困っている事等があれば、下記の記載欄に記載して下さい。

・経済的な面で心配なこと

※震災費英英奨学金等については現在検討中ですが、本アンケートの内容も参考にします。

・精神的な面で不安なこと

・その他自由記載欄

Questionnaire for students to understand the situation #3

This questionnaire is to understand the present situation of students after the earthquake on March 11. Please fill and enclose the form in an envelope and post it in the box at the Student Affairs Office (Kyomushitsu), only when you understand and agree the purpose of this questionnaire. Even though you do not agree to answer the questionnaire, do not hesitate to contact us whenever you have any physical, mental, and/or financial problems that are more or less associated with the disaster. We are willing to help you. If there are any questions that you do not want to answer, please leave them as blanks. Purposes of this questionnaire are as follows:

1. Have Great East Japan Earthquake and related matters influenced on students any of physical, mental and/or financial problems? If so, we wish to find them earlier and help those who wish our help (see also Question 6) by treatment and/or providing relevant information.
2. The collected information with this questionnaire will be used to understand the future effects on students, and to utilize as the valuable information for the similar disaster in the future. *

* In case of presentations at the conference and/or publication, we will keep the confidentiality of the information.

We experienced twice of these questionnaires in 2011 and utilized obtained information for mental and financial supports. Nearly one year has passed and its time to do 3rd questionnaire.

I understand the purpose, and I agree ^a I do not agree ^b to fill out the questionnaire.

Examples

Good	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Bad
------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----

Please fill circles (○).

Grade : _____ Student ID number : _____ Name : _____

School of Medicine School of Health Sciences Graduate Student

1) Situation of your family, relatives, close friends and acquaintances. (Multiple choice)

- O 1. Physically injured O 2. Damage to house, etc. O 3. Financial problems O 4. No damage

2) If your answer is either 1, 2, or 3, how did the above-mentioned situation/problems?

Select the appropriate brackets and fill as follows (2, 3)

- O solved (_____)
 O relieving (_____)
 O no change (_____)
 O worsening (_____)
 O New problems appeared (_____)

3) Your physical conditions since the disaster to date (part 1).

- O a. headache O b. abdominal pain O c. nausea O d. diarrhea
 O e. constipation O f. dizziness O g. insomnia
 O h. other symptoms : (_____)
 O i. No abnormalities

4) Your physical conditions since the disaster to date (part 2).

- O a. I experience flashback(s) related to the disaster and/or nightmares
 O b. I sometimes feel anxiety and fear suddenly
 O c. There is a particular place where I cannot go after the quake
 O d. There is something that I can not remember or something I decline to consider
 O e. Insomnia continues, and/or small sound woke me up
 O f. Ideas float like blaming myself (such as "I cannot do anything")
 O g. Negative thinking increased (such as "I cannot help anyone." "Everything I do has no meaning.")
 O h. Others (Examples: I lost motivation, fatigue continues, increased alcohol intake)
 (_____)
 O i. No particular abnormalities

震災後の学生状況把握に向けたアンケートについて

* 記入したアンケートは、医学部・医学系研究科の教務室内にある提出箱に提出して下さい。

保健学科の学生は、保健学科総務係の提出箱に提出しても結構です。

* アンケート用紙は EAST でもダウンロードが可能です。

* アンケートの提出後に、体調の異常などが生じた場合にも、学生厚生委員会、教務、医学教育推進センター、学生なんでも相談室、学生相談所、相談しやすい窓口や先生などに気軽に相談して下さい。

* アンケートに関する質問があれば、医学教育推進センター (717-8508)、あるいは教務係に気軽に問い合わせ下さい。

- 学生厚生委員会 委員長 堀井 明
 副委員長 斉藤 秀光
 医学教育推進センター 金塚 完

5) How did the above-mentioned symptoms/problems listed in 3) and 4)?

Select the appropriate brackets and fill as follows (3-a, 4-a)

- solved (_____)
 relieving (_____)
 no change (_____)
 worsening (_____)
 new problems appeared (_____)

6) Do you wish any consultation on your mental, physical, and/or financial (may be others) issues?

Yes. I already visited consultation. No.

7) If you have any problems on concerns, please feel free to describe below.

• Financial issue.

※We are considering the scholarship. This questionnaire gives us valuable information.

• Mental issue

• others

Questionnaire for students to understand the situation after the The Great East Japan Earthquake

* Please fill and enclose pages 1 through 6 in an envelope and post in the box at the Student Affairs Office (Kyoumushitsu) only when you agree the purpose of this questionnaire. Undergraduate students in school of health sciences may post in the box at the Soumukakari.

* The questionnaire can be downloaded through EAST, the portal system of our medical school.

* After submitting the questionnaire, even if there is such abnormal condition, You can ask for consultation at any time to the Student Welfare Committee, Student Affairs Office, Office of Medical Education, counseling room on Seiryō and Kawauchi Campus, teachers and office you can visit with ease.

* If you have any questions about this survey, please feel free to ask us. E-mail address is as follows: meduc:jimu@bureau.tohoku.ac.jp

Akira Horii, MD, PhD (Chair, Student Health and Welfare Committee)

Hidemitsu Saito, MD, PhD (Vice Chair, Student Health and Welfare Committee)

Hiroshi Kanatsuka, MD, PhD (Office of Medical Education)

貴重な生物試料などの被害状況

東日本大震災とその後の停電により、程度の差はあれ、医学系研究科・医学部の全分野が甚大な被害を被った。2011年7月に実施したアンケート調査（東日本大震災記録集・編集委員会が実施）により、生物試料等の被害状況の全容が明らかにされた。本資料では、被害状況の一端を紹介する。

深刻な被害は、高層建造物である医学部1号館（11階建て）、2号館（9階建て）、3号館（12階建て）、及び5号館（10階建て）に集中した。特に、3.12（土）の昼頃に電気が復旧した1号館と5号館などと異なり、2号館と3号館（臨床系分野の研究室が存在）では、建物内部の損傷のため、電気が復旧するまでに1週間以上かかった。その結果、凍結臨床検体の被害が甚大であった。一方、低層建造物である医学部4号館（6階建て）と医学部保健学科棟（4階建てのA棟、及び3階建てのB棟）の被害は比較的軽微であった。なお、1日足らずで電気が復旧した1号館の基礎系分野の冷凍庫に凍結試料を一時避難させ、検体の融解を免れた臨床系分野もあり、今後の震災対応を策定する際の参考となる。

震災による機器の倒壊と停電による冷凍庫（ -20°C 及び -80°C ）などの機能喪失による被害が多発した。その殆どは、貴重な凍結臨床検体の喪失であり、二度と入手できない腫瘍組織、稀少疾患の種々組織、血液、尿、脳脊髄液などの生体試料が含まれ、その損失は計り知れない。事実、長年（数十年）にわたり収集してきた臨床検体を失ってしまった分野も少なくない。

被害の実例

震災による被害

- ・世界で唯一の稀少疾患を含め数多くの貴重な病理組織標本（ガラス標本）の喪失

震災後の停電による試料の喪失（凍結試料の融解による被害）

- ・貴重な臨床検体（1,000以上の生検組織および患者血清・脳脊髄液 3,000検体、剖検から得た脳・脊髄サンプル 100検体）
- ・希少疾患の検体ライブラリー
- ・凍結切片用包埋手術組織（約 5,000 検体）、及びその一部症例からの抽出ゲノム DNA と RNA 約 1,000 検体
- ・凍結摘出腫瘍組織（卵巣癌、子宮体癌、骨軟部腫瘍、乳がん、前立腺がんなど）。当該分野を集計すると 10,000 検体を超える。
- ・約 300 件の試料（凍結脳、切片）
- ・種々ヒト由来培養細胞（7,000 本のチューブ）
- ・種々動物実験組織・血液、その調整試料多数

以上のような逆境の中、教職員と大学院生は立ち上がり、研究を再開すると共に、津波被災地域における医療支援にも貢献した。彼らの情熱と行動力に敬意を表する。

（文責：柴原茂樹）

災 害 報 告 書 (速 報) 第 1 報

法人名 国立大学法人 東北大学

- 1 災害の種類 地震 (三陸沖を震源とする地震)
- 2 災害発生日 平成23年3月11日(水) 14:46
及び概況
- 3 被害状況 18日17:00現在

所在地	学部・団地名 (高専は学校名)	施設名 (要求有り○印)	被害の状況
宮城県仙台市青葉区星陵町	星陵団地 (医学部)	建物	1号館 内部2階RC壁他剥落多数発生
		建物	1号館 内部各階RC壁クラック発生
		建物	1号館 ボード壁破損
		建物	1号館 EXP.J (内部:各階) 金属カバー脱落
		建物	1号館 EXP.J (外部) 破損
		建物	1号館 屋上高架水槽破損
		建物	1号館 エレベーター2基破損
		建物	1号館 大会議室照明カバー脱落
		建物	1号館 屋上DC用ダクト脱落 4系統
		建物	1号館 8~11階廊下スラブ不陸発生
		建物	1号館 窓ガラス破損
		建物	1号館 コンセント・スイッチ類破損
		建物	1号館 天井スピーカ脱落
		建物	1号館 水道配管破損
		星陵団地 (医学部)	建物
	追加 (4月13日)	建物	1号館 1階ポンプ室呼水槽漏水
		建物	1号館 1階ピロティール給水管破損
		建物	1号館 2階防火戸閉鎖不良
		建物	1号館 屋上ドラフト用ダクト破損
		建物	1号館 屋上補給水槽ボールタップ破損
		建物	1号館 実習棟5階廊下壁剥落
		建物	1号館 実習棟4階窓ガラス破損
		建物	1号館 1階ロビー天井一部脱落
		建物	1号館 2階大会議室天井からの雨漏り
		建物	1号館 実習棟2・5階ボード壁剥落が大幅に増加
	追加 (4月15日)	建物	1号館 ガス管破損 (破損時期不明)
	追加 (4月20日)	建物	1号館 電気室北側地面陥没
	追加 (4月20日)	建物	4号館 内部各階RC壁クラック発生
		建物	4号館 ボード壁破損
		建物	4号館 間仕切り壁変形
		建物	4号館 外壁タイル脱落
		建物	4号館 6階廊下照明脱落
		建物	4号館 4階室名表示脱落
建物		5号館 階段ボード壁クラック発生	
建物		5号館 屋上ドラフト用ダクト破損	
建物		5号館 RC壁、ボード壁クラック発生	
建物		5号館 各階WCドア開閉不良	
建物		5号館 排煙操作ハンドル変形 3ヶ所	
建物		5号館 Pタイル破損	
建物		5号館 外部ポーチ及び建物廻りAS舗装段差発生	
建物	5号館 窓ガラス他破損		
建物	5号館 窓ガラス開閉障害		
建物	5号館 ボード壁破損		
建物	5号館 コンセント・スイッチ類破損		
建物	5号館 ガス管破損 (破損時期不明)		
厚生施設	建物	内部RC壁クラック発生、1階床亀裂発生	

		建物	厚生施設	2階床Pタイル破損
		建物	厚生施設	窓ガラス破損 1カ所
		建物	厚生施設	ドア破損 1カ所
		建物	厚生施設	空調吹出し口脱落 3カ所
		建物	厚生施設	漏電発生(調査中)
		建物	保健学科	A棟内部各階RC壁クラック発生
		建物	保健学科	A棟EXP. J部開口
		建物	保健学科	B棟内部各階RC壁クラック発生
		建物	保健学科	B棟2階廊下スラブ不陸発生
			保健学科	外部マンホール蓋破損
			保健学科	A棟廊下巾木脱落
			保健学科	A棟ロビー天井破損
			保健学科	B棟増築部分との隙間拡大
		土地		医学部北門付近 AS舗装沈下(50cm×6m程度)
		建物	動物実験施設	内部各階RC壁クラック発生
		建物	動物実験施設	空調吸気口脱落 2ヶ所
		建物	動物実験施設	空調チャンバー脱落 2系統
		建物	動物実験施設	排気口ダクト脱落 4ヶ所
		建物	動物実験施設	空調ダクト破損
		建物	RI星陵サ ブジョン	ブースターファン動作異常
		建物	RI星陵サ ブジョン	照明器具脱落 1ヶ所
		建物	RI星陵サ ブジョン	非常扉開閉障害 2ヶ所
		建物	RI星陵サ ブジョン	ヒートポンプエアコン不作動
		建物	RI星陵サ ブジョン	コンセント破損 1ヶ所
		建物	体育館	体育館(356)玄関ホール部分RC壁クラック発生
		建物	良陵会館	2階EXP. J(内外部)金属カバー脱落 4枚
		建物	良陵会館	内部各階RC壁クラック発生、一部脱落発生
		建物	良陵会館	ピロティエ部分外壁タイル剥落及び床クラック発生 約5m
		建物	良陵会館	2階EXP. J周辺天井破損 約1㎡
		建物	良陵会館	2階大会議室照明器具脱落 2ヶ所
		建物	良陵会館	ピロティエ照明器具脱落 1ヶ所
		建物	良陵会館	記念ホール照明器具脱落(高所にて未確認)
		建物	良陵会館	窓ガラスシーリング脱落
		建物	良陵会館	1階床木パネル脱落
		建物	良陵会館	避難誘導灯表示パネル脱落 1ヶ所
		建物	良陵会館	5階機械室給水配管からの漏水 1ヶ所
		建物	良陵会館	記念ホールスピーカー脱落 1ヶ所
		建物	良陵会館	機械室内冷温水管漏水発生 1ヶ所
		工作物	良陵会館	外部内庭灯籠破損(11基)
			良陵会館	2階小会議室窓ガラス破損
			良陵会館	2階記念ホールロビー床破損
			良陵会館	2階記念ホールスピーカー脱落(2台)
			良陵会館	2階記念ホールロビー照明脱落
			良陵会館	2階記念ホールロビー壁変形
			良陵会館	2階記念ホール天井ガラス破損
	追加(4月25日)		良陵会館	ピロティエEXP. J脱落
	追加(5月11日)		良陵会館	2階トイレドア開閉不良
		建物	課外活動室	内部RC壁クラック発生
		建物	課外活動室	コンクリート落下、鉄筋露出 2ヶ所
		建物	標本倉庫	窓ガラス破損 12ヶ所
		建物	COE研究棟	ボード壁クラック発生
		建物	医学部研究棟	ボード壁破損 5ヶ所

【震災被害状況一覧】

部局名	学部	設備名
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	教育用PET分子イメージング装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	疾患モデル動物保存システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	疾患モデル動物飼育システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	疾患モデル動物作製システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	疾患モデル動物解析システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	探索医療用遺伝子・細胞検定システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	探索医療用遺伝子・細胞調整システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	核磁気共鳴イメージング装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学系)	次世代型高速シーケンシングシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	CO2インキュベーター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	透過型電子顕微鏡
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ウルトラマイクローム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	レーザー顕微鏡
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	フローサイトメーター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	光学蛍光万能顕微鏡
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	3130ジェネティックアナライザ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	パッチクランプシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	nCounter遺伝子解析システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	分離用超遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	超遠心機用ローター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	分光光度計
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	微量天秤 1は-002-54
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	超純水製造装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	CO2インキュベーター P-008-306
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ドラフトチャンパー
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	FACSキャリバー(2レーザー搭載、セルソーター装置付)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	FACSキャリバー(2レーザー搭載)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	レーザー操作共焦点顕微鏡
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	高感度タンパク質同定用質量分析装置(LTQ-LX)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	高感度タンパク質同定用質量分析装置(LTQ-Orbitrap Velos ETD)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Fuji LAS4000
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	nanodrop ND-1000
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ステリサイクルCO2インキュベーター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	CO2インキュベーター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	SANYO バイオロジカルセイフ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	SANYO バイオクリーンベンチ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Leica顕微鏡DM1RB
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Leica顕微鏡DM1RBE
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	NikonデジタルサイトDS5ML1

部局名	学部	設備名
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	eppendorfマイクロインジェクター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	TOYOBO MagExtractor MFX2000
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Leica顕微鏡DMHRC
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Leica顕微鏡GFP2
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	遺伝子導入装置Nucleofector2Device
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	遺伝子導入装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ステージンキュベーション
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	蛍光イメージングシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ライカ インテリジェント倒立顕微鏡 DMI 6000B(位相差、微分干渉仕様)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	カールツァイス共焦点顕微鏡(LSM510)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	オリンパス 2人用並列型ディスカッション正立顕微鏡 BX50、デジタルカメラ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ライカ蛍光実体顕微鏡(MZ 16FA)M205FAオリンパス デジタルカメラDP72-SET-B-2
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	超低温槽 ULT-1386-5B (REVCO)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	アブライドバイオシステムズDNAシーケンサー(PRISM3100-100C)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	カールツァイツロータリーミクローム(HM360)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ライカ マニピュレーターシステム5台
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ミリポア 純水装置精製装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Bio Rad Chemi DOC XRS Plus
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ニコン共焦点顕微鏡A1R
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	プレクソン多チャンネルアンプシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	活性炭ユニット上置型ドラフトチェンバー(DFV-12DE-12BA1)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	パッチクランプシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	顕微鏡
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	マウス非観血血圧測定装置一式
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	膜電固法定装置一式
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	高速液体クロマトグラフ(日立 LaChrom)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	実験台(ダルトン)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	CO2インキュベーター(アステック)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	安全キャビネット(三洋)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	FISH/CGHシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	LAS1000
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	PCR9600
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ベックマン遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Alamae Blue測定用パソコン一式
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ベックマン高速遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	光学顕微鏡+画像取り込みシステム一式
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	蛍光顕微鏡
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	実験台
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ドラフト
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	CO2 インキュベーター

部局名	学部	設備名
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	吸光度計
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	実験棚
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	サーマルサイクラー
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	プロジェクター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	遠心濃縮装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ゲル撮影装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	パラフィン熔融機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	パラフィン伸展機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	純水装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ベンチレーター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	麻酔機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	吸光度計
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	超純水製造装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	顕微鏡用デジタルカメラシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	レーザーキャプチャーマイクロダイセクションシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	顕微鏡用デジタルカメラシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	CO2培養器
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	粒子計数分析装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	顕微鏡用デジタルカメラシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	バイオクリーンベンチ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	倒立顕微鏡蛍光位相差セット(KSオリンパス)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	環境制御飼育装置エバックCL-5351-S
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ライカマイクロシステムズ社実体顕微鏡 M651 M001-682
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ADVANTEC P008-149
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Illumina BeadStation
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	超純水製造装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	水銀専用原子蛍光分析装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	筋電図誘発電位検査装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	レール可動式書架システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	移動書架 トーキ:EMG-7520D
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ユニット収納システム オカムラ:FS-9
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	超低温フリーザー SANYO MDF-U72V
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	超低温フリーザー SANYO MDF-U481AT
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	超低温フリーザー SANYO MDF-592AT
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	高速液体クロマトグラフタンデム型質量分析計(LC-MS/MS)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ガスクロマトグラフ質量分析計(GC-MS)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	自動固定包埋装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	蒸留水発生装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	DNA抽出装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	リアルタイムPCR装置

部局名	学部	設備名
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	インキュベーター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	310ジェネティックアナライザー
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	3500ジェネティックアナライザー
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	システム生物顕微鏡, オリンパス顕微鏡デジタルカメラ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	恒温水槽
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	実験台
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	位相差顕微鏡(オリンパス)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Apple Mac Pro Apple Zoem 2x3.2GHz Quad-Core Intel Xenon
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	マイクロム社製クリオスタット
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	超純水製造装置GRADIENT本体
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	動物個別飼育装置 LP-80CCFL-6AR
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	高速データ取り込み解析 システムMP150WSW
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	顕微鏡・デジタルカメラシステム DFC-480
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ポリグラフHR 8チャンネル SYNMED-93-7800
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	NEC (PC)、G&J Electronics (刺激装置)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	マイクロディスプレイ HYDRAII96スタンダード 100μ 109610STD
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	EICOM社製PUSH PULL SAMPLING UNIT ES-70(神経ペプチド解析システム)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	EICOM社製PUSH PULL PUMP UNIT EP-70(神経ペプチド解析システム)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	EICOM社製CB-100(電気化学検出器)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	TAITEC社製COOLPUMP CP-80(分析機器への循環クーラー)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	psynectics社製消化管運動解析用PC液晶ディスプレイ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	遺伝子改変動物用ベントラック
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	マイクロマニピュレーター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	長焦点実体顕微鏡
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ボックス型顕微鏡装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	蛍光および位相差顕微鏡装置 M001 762
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	液体クロマトグラフィー AKTA explorer
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Leica蛍光実体顕微鏡と付属のカメラシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Zeiss正立型蛍光顕微鏡Axioplanと付属のカメラシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Zeiss倒立型蛍光顕微鏡Axiocvertと付属のカメラ、細胞培養システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	実体顕微鏡インジェクションシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	サーカディアンリズム測定解析システム ClockLab
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	カメラ&モニター付Leica実体顕微鏡M165
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	CO2インキュベーター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	クリーンベンチ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ダルトン試薬棚付サイド実験台3台+ユニット流し台+薬品戸棚
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ディープフリーザー
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Elix & MilliQ超純水装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Leica実体顕微鏡顕M165 4台
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Real-time PCR装置(Bio-Rad iCycler)一式

部局名	学部	設備名
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	超低温フリーザーMDF-542AT
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	メディカルフリーザーMDF-U536D
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	蛍光光度計制御用コンピュータ PowerMacG3
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	島津クロマトバックCR7A plus
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	島津HPLC用ポンプLC-10AD
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	蛍光眼底カメラ(コーワ、GENESIS-Df)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	共焦点レーザー顕微鏡装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	分子間相互解析装置ピアコア 資産番号なし
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ディスカジョン顕微鏡装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	動物飼育用安全空調システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	リアルタイムPCRシステム一式
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	低温インキュベーター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	β 線計測装置一式
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	高感度冷却CCDカメラ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	高速波長切替装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Ai用ワークステーションサーバー
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	蛍光顕微鏡MZFL III
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	β 線計測装置一式
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	蛍光量計 EY-1002D
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	放射線モニタ 9015型
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	人体ファントム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	TLD線量計 KYOKK02500型
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	カラープリンタ/増設カセット
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	1分子蛍光イメージングセット
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Perkin Elmer Gene Amp PCR System 9600
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Bio-rad Immuno Wash
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Perkin Elmer Gene Amp PCR System 9600
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	パーティション
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	エクストルーダー
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	1 μ L 分光光度計
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	マスターサイクラ ep gradient S
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ジェット式洗浄機 MJW-9020
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ゼータサイザーナノ ZS
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	フリーザー
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ポリメイト
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	マスターサイクラ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	オートウェルガンマシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	液体シンチレーションカウンター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	低バックグラウンド液体シンチレーションカウンター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	2次元表面汚染測定装置

部局名	学部	設備名
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ガンマカウンター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	オートウェルガンマシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	遠赤外線動物乾燥装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	放射線監視システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	FACS Aria
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	FACS Aria Special Order System
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	FACS Canto II
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	XENOGEN IVIS
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	BIACORE X100
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ABI PRISM310
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ABI PRISM3100
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	XL-90 超遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	L-80 超遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	L-70 超遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	TL-100 超遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Optima TLX 超遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	EM UC7 ウルトラミクローム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	超遠心用ローター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	FACS LSR Fortessa
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	7900HT Fast Real Time PCR system
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	セロミクス細胞イメージ解析装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	IVIS spectrum
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	MRI
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Latheta laboratory CT
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	多光子励起レーザー走査顕微鏡
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Takeru for Sequencer II system
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Takeru DB-GB-WEB Server
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	次世代型DNAシーケンサー Genome Analyzer Iix
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	X線回折計
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	質量分析計
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	恒温恒湿室
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	タンパク質精製装置(2台)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	円二色性分光測定装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ドラフト排気廃棄装置(SHIMADZU)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ロータリー式ティッシュプロセッサ(Leica)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ティッシュプロセッサ(ライカ製)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	マイクローム(ヤマト製)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	パラフィン融解器(アズワン製)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	蛍光顕微鏡(オリンパス製)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	顕微鏡観察システム(オリンパス製)

部局名	学部	設備名
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	組織封入用安全キャビネット
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	実験台(ヤマト製)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	実験台(小畑ラボテック)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	計算サーバー
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	高速遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	アブライドバイオシステム3500XLジェネティックアナライザシーケンスシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	FUJILミノイメーリアライザLAS-1000
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Nikon レーザー操作共焦点顕微鏡システムC1
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ソフテックス軟X線非破壊検査装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	サイファーゼン プロテインチップシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	HITACHI分離用超遠心機CP70MX
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	MoleculerDevice高性能マイクロプレート分光光度計
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	UVP Bio-Doc It System
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	サーマルサイクラー(Takara TP-600)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	オリンパス社共焦点顕微鏡 FV1000
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	シグマ光機社レーザーピンセット装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	バイオラッド社蛍光イメージャー装置(Pharos FX Plusシステム)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	バイオラッド社Bio-Plexサスペンションアレイシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	Molecular Device社マルチプレートリーダーM5
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ロシュリアルタイムPCR測定装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	細胞培養用CO2インキュベータ(3台)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	フローサイトメーター
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	HPLC
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	マイクローム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ドラフト
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	パラフィン置換機
06医学系研究科・医学部	青葉山キャンパス サイクロトロンRIセンター	ポジトロンブナーイメージング装置
06医学系研究科・医学部	青葉山キャンパス サイクロトロンRIセンター	小動物PET/CT装置
06医学系研究科・医学部	青葉山キャンパス サイクロトロンRIセンター	分析用高速液体クロマトグラフィー装置
06医学系研究科・医学部	青葉山キャンパス サイクロトロンRIセンター	RIキャリアプレート(放射能測定装置)
06医学系研究科・医学部	青葉山キャンパス サイクロトロンRIセンター	ロータリーエバポレーター(溶媒濃縮装置)
06医学系研究科・医学部	青葉山キャンパス サイクロトロンRIセンター	ドーズキャリアプレート
06医学系研究科・医学部	青葉山キャンパス サイクロトロンRIセンター	島津PETシステム用血中RI濃度測定システム用データ処理装置
06医学系研究科・医学部	青葉山キャンパス サイクロトロンRIセンター	RIシリンジホルダ(Magic Holder)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	高速冷却遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	共焦点顕微鏡M-002-83
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	クライオーム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ABI社製シニティックアナライザ-PRISM3100
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	マイクロマニピュレータ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	次世代型高速シーケンシングシステム

部局名	学部	設備名
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	自動細胞解析分離システム (BD社Ariall)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	小動物用・運動量計測システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	蛍光倒立顕微鏡
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	iXonワークステーション
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	紫外可視分光解析システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ドラフトチャンバー
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	マイクロ冷却遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	倒立顕微鏡(ライカ)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ディスカッション顕微鏡(オリンパス)
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	包埋装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ゲル撮影装置AX310B
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	データサーバーHDL-XR8.0
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	高速冷却遠心機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ゲル撮影装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	クライオトーム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	NaIシンチレーション計測装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	管電圧管電流計
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	共焦点顕微鏡システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	UVゲルドキュメンテーションシステム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	BioDoc-it Imaging systemゲル撮影装置
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	倒立型共焦点レーザー顕微鏡C1R
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	倒立型共焦点レーザー顕微鏡C1s
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	倒立型共焦点レーザー顕微鏡A1R
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	大型滑走式マイクローム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	安全キャビネット
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	制御用PC
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	パラフィン溶融機
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	ティーチング顕微鏡
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	サーマルサイクラー
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	リアルタイムPCR解析システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	BioRad ProteinCip SELDI Personal Edition PCS4000P 資産番号
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	安全キャビネットKS15
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	蛍光量計 EY-1002D
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	書架
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	電気生理学計測装置システム
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	バイオクリーンベンチ
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	オリンパス研究用ステージ固定式正立顕微鏡
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	エイコム社 EP-700M ポンプシステム 1式
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	CO2インキュベーター 1式
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	高速液体クロマトグラフ

部局名	学部	設備名
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	(米)サームフィッシャーサイエンティフィック社製 超低温槽 ULT-1390-10D 一式
06医学系研究科・医学部	星陵団地(医学部)	γ線用ポータブルスペクトロメータ JSM-112B 1台

寄付申出受付状況と活用状況などについて (平成 24 年 1 月現在)

<http://www.med.tohoku.ac.jp/emg/support.html> より

1. 医学系研究科 寄付申出 受付状況について

- ・受付件数：171 件
- ・受入れ総額：27,748,569 円

※現在まで、医学部学生・医学系研究科大学院生の被災学生合計 56 名に対して支援を行いました。

※残額につきましては、対象学生の卒業・修了までを考慮し、計画的に運用させていただきます。

2. 医学系研究科 寄付金の活用状況について

- ・被災した医学部・医学系研究科学生へ対する奨学金支援

御支援への御礼

(<http://www.med.tohoku.ac.jp/emg/appreciate.html> より)

平成 23 年 3 月 11 日に発生しました東日本大震災に際し、当方の研究科に対して、非常に多くの方々から、心温まる救援物資、人的な支援、情報・連絡の面での支援、輸送面への支援などをお寄せいただきました。心より御礼申し上げます。

また、特に地震発生当初におきましては、物流のためのルートが極端に限られたために、御支援の手配を頂いたにも関わらず、活かしきれなかったこともございます。そして、通信の事情もあり、御礼の御連絡にも不備があった可能性もございます。お詫び申し上げます。諸事情斟酌の上、御海容頂きますようお願い申し上げます。

下記、御支援頂いた皆様、一部ではございますが、御名前をあげて感謝の意を表します。

なお、掲載を様々な理由から固辞されるなど、ここに御名前をあげられなかった団体・個人の方々もいらっしゃることを、申し添えます。

ご支援・ご協力をいただいた皆様（順不同）

- ・岡山県立高松農業高等学校様
- ・岡山県立興陽高等学校様
- ・医療法人社団 松和会 甲斐信一様、井上憲子様
- ・株式会社メディカル東友様
- ・小山株式会社 小山智士様
- ・ユニ・チャーム株式会社 高原豪久様、別所映子様
- ・三ツ矢製菓株式会社 栗本寿江様、山田智恵子様、荒木美代子様、ほかの皆様
- ・東京理科大学生命科学研究科分子病態学研究部門 久保允人先生
- ・公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団） 山中芳朗様
- ・株式会社明治 健康栄養ユニット 栄養事業本部 栄養食品事業部 飯泉千寿子様

- ・熊本大学生命資源研究・支援センター動物資源開発研究部門 (CARD) 資源開発分野 中潟直己先生
- ・日本クレア株式会社 田口福志社長
- ・筑波大学生命科学動物資源センター 高橋智先生、八神健一先生
- ・日本 SLC 株式会社 高木博義社長
- ・有限会社熊谷重安商店 熊谷隆社長
- ・マーシャル・バイオリソーシス・ジャパン株式会社 安倍宏明社長
- ・新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター 横山峯介先生
- ・神戸大学大学院医学研究科附属動物実験施設 塩見雅志先生 教職

員の皆様

- ・慶應義塾救済医療団の皆様
- ・大阪大学大学院生命機能研究科・村上富士夫先生
- ・株式会社ルシール 幸村裕治社長
- ・東北薬科大学様
- ・東北大学生協星陵店様
- ・明日可薬局様
- ・オリエンタル酵母工業株式会社様
- ・三井物産株式会社東北支社様
- ・鈴木忍様
- ・(財) がんの子供を守る会様
- ・フクミ薬局様

また、国内外の多くの研究機関から、大学院生の実験場所の提供やサンプル退避の受入れのお申し出を頂いています。あわせて感謝申し上げます。

東北大学大学院医学系研究科・医学部

おわりに

柴原茂樹

東日本大震災記録集編集委員会・委員長

2011.3.11に発生した東日本大震災と津波による犠牲者・行方不明者は、約20,000人にも達します。この悲惨な現実には言葉もありませんが、ここに、改めて、犠牲者の皆様の御冥福をお祈りいたします。特に、津波被害は甚大であり、死亡者の9割以上は津波による犠牲者です。しかも、震災から1年が経ちましたが、津波被災地域の復旧は前途多難といった状況です。今後、長期間にわたる支援が不可欠です。広大な被災地域に対して、医学系研究科・医学部及び東北大学病院では余りにも微力ですが、私達はできる限りの努力をしてきました。3.11の震災直後には、食料調達にも苦勞する状況でしたが、多くの構成員は各所属分野の復旧に務め、さらに、津波被災地域における医療支援にも尽力しました。

東日本大震災により、歴史書「日本三代実録」に記された大地震と大津波（西暦869年に発生した貞観津波）に関する記述の正しさが証明されました。また、今回のような大津波が約1,000年周期で仙台平野と福島県の相馬平野を襲っていることが、東北大学理学研究科・箕浦幸治教授らにより報告されていました。しかし、一部の専門家を除き、このような大津波の危険を認識している人は殆どいませんでした。災害の記録を後世に残し、かつ記録を周知する事の重要性を痛感しました。従って、本東日本大震災記録集の目的は、このような大災害時における被害と対応の記録を残し、将来、必要な時に役立ててもらふ事です。特に、被災地に存在する医学教育研究機関としての記録は貴重であると考えています。さらに、医学系研究科・医学部の東日本大震災記録集を多くの方々に読んで頂くため、記録集のすべてを電子媒体としてweb上で公開します。その際、本記録集に掲載できなかった医学系研究科・医学部の全分野の活動を追加資料としてweb上で紹介する予定です。

東北大学大学院医学系研究科・医学部は、山本雅之医学系研究科長・医学部長のリーダーシップの下、東北大学病院と協力し、広大な被災地域における医療体制の復旧・復興、及び新たな医療体制の構築など、被災地域を活性化させるべく種々取り組みを計画・実践しています。今こそ、東北大学大学院医学系研究科・医学部の真価が問われる時です。気概のある人材が集結し、それぞれの夢を追い求め、目的を達成することこそ、多くの人々の幸福に資することになると信じています。

創造的復興に向けての今後の活動は、平成24年度に就任される大内憲明医学系研究科長・医学部長に引き継がれていきます。また、平成24年度大学院（医学系研究科）博士課程に、多くの若者が参集してくれます（定員151名を満了）。さらに、被災地域における医療状況を勘案し、平成24年度東北大学医学部医学科の入学定員を5名増員し、125名としました（AO入試Ⅲ期で15名、一般選抜入学試験

(前期日程試験) 110名)。なお、東北大学の理念に基づき、地域枠入学制度は導入していません。嬉しいことに、平成24年度東北大学医学部の志願者は昨年度実績を超え、4月には多くの気概ある新入生が本学医学部に入学します。新たに加わる院生及び学部学生諸君の情熱を糧に、構成員一同、東北大学医学系研究科・医学部の創造的復興を推進していきます。

東北大学(井上明久総長)としても、災害科学国際研究所を設立するなど、復興計画を着々と実践しています。平成24年度には、里見進東北大学病院長が東北大学総長に、下瀬川徹教授(東北大学病院・副病院長)が東北大学病院長に就任されます。このように、平成24年度には、新たな執行部が本学の復興計画をさらに推進していきます。

最後に、被災地域及び東北大学に対する国内外の多くの方々のご支援と激励に心より御礼申し上げます。多くの皆様に支えて頂き、微力ながら、東北大学大学院医学系研究科・医学部は被災地域の復興に貢献できるようさらに努力して参ります。

謝辞

笹氣出版印刷企画課・新野真里恵氏に心より感謝します。彼女の熱意により、本記録集を平成23年度内に刊行することができました。また、一條肇氏(広報室)には貴重な記録写真と種々情報を提供して頂きました。高橋信野・附属図書館医学分館事務長(当時)は医学分館の早期開館(震災3日後の3月14日に開館)に大活躍しました。さらに、医学系研究科・医学部の復旧・復興にご尽力頂いた齋藤嘉信・事務長、大場得志・総務室長、土井弘也・教務室長、渡邊芳男・財務室長をはじめ多くの事務職員の皆様に感謝します(一覧参照)。特に、3.11震災直後の混乱期に安否確認や救援物資の運搬等で奮闘された佐藤龍彦・庶務係長(当時)、佐々木律・人事係長、高田宏行・研究協力係長(当時)、伊藤和・管理係長、木村宙・管理係主任らの勇姿が脳裏に焼き付いています。最後に、本震災記録集で紹介できなかった多くの教職員がいることを忘れることはできません。各人が所属分野の復旧に務めた結果、研究をいち早く再開することができました。震災後の混乱期に共に奮闘したすべての皆様に感謝致します。

復旧・復興に奮闘した事務職員一覧

() は 3.11 震災当時に在籍し、既に退職あるいは異動されたことを示す。

事務長：齋藤嘉信、(吉田隆幸)

総務室：大場得志

係長 下山真樹、(佐藤龍彦)、佐々木律、佐藤 豪、(高田宏行)、佐藤恵美子

主任 高橋雄一、片平久美子

係員 田中友紀、星道代、千葉智子、田中菜津子、安達みつ江、及川史絵、(元木亜紀)、菊田博子、
藤代二葉、滝田知香、熊谷千晶、内田孝義、法師濱宏子、(阿部沙織)、田部恵久子、佐々木淳、(川本美智子)
佐藤真由美、大沼里志、岡 亨、(伊藤幸恵)

保健学科秘書：千葉真由美、鹿野美紀、寺尾典子

教務室長：土井弘也、(菅原昇一)

係長 松嶋邦明、齋藤康博、(原子智裕)、兼子順子、(相澤光義)

主任 星野千晶、齊藤裕彦

係員 加藤 純、和田英哲、前田和美、西脇直子、南雲圭太、中田花林、青木節子、阿部華子、青木美緒
水木梨絵、濱野玲子、鎌田 茂、成澤勇太

医学教育推進センター

高橋文恵、荒田悠太郎、荒田彩香、田中克典、小熊絵美

財務室長：渡邊芳男

係長 永野桂一、三浦 博、伊藤 和

主任 遊佐文晴、深谷元季、(鳥光典子)、平エリナ、庄司由佳、(小野未来)、木村 宙

係員 小澤菜央、佐々木明里、影山順子、(佐々木芳奈子)、佐藤 充、菅谷弘子、加藤麻里、本郷弘武、(柴田千尋)
(八木大輔)、鈴木秀一、松田弘子、木村吉和、松川克義、阿部喜子、沼田正敏、菱沼正一、伊藤正志
(氏家寿則)